

1901 東那珂遺跡第8次調査 (HGN8)

所在地	博多区東那珂一丁目 425 番、426 番
調査原因	共同住宅
調査期間	2019.4.8 ~ 2019.5.23
調査面積	235m ²
担当者	板倉有大・三浦萌
処置	記録保存

調査の概要

東那珂遺跡は福岡平野の中央部、御笠川東岸の沖積地上に位置する。遺跡の周辺地形は那珂川や御笠川等の大小河川の浸食によって形成された中低位段丘と沖積地によって構成されている。本遺跡は沖積低地上に位置し、現在は水田を埋めた宅地となっている。周辺遺跡には西側に那珂遺跡群、東側に雀居遺跡などがある。

第8次調査地点は遺跡範囲中央部の西側に位置し、第1次調査の東側に隣接した狭長な敷地となる。調査で検出された遺構は、柱穴やピット、溝、方形土坑1基、掘立柱建物2棟等である。

遺物は遺構や調査区全体から古代に属する須恵器や土師器、黒色土器、越州窯系青磁などがコンテナケース7箱分出土した。遺構の主要な時期は第1次調査と同時期の8世紀ごろと考えられる。



1. 調査地点の位置 (23 雀居 2635 S=1/8,000)



2. 調査区南半全景 (北西から)

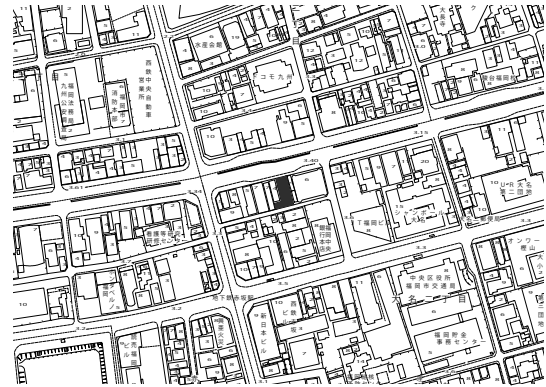
1902 福岡城下町遺跡第3次調査 (FUM3)

所在地	中央区大名2丁目279番、280番
調査原因	ホテル建設
調査期間	2019.6.10～2019.9.13
調査面積	319.0㎡
担当者	屋山洋
処置	記録保存

調査の概要

福岡城下町遺跡は福岡城北側の砂丘状に位置し、3次調査地点は福岡城下町の復元図によると南側の武家屋敷地区と北側の町屋地区の境界に位置する。遺構は江戸時代初頭の盛土や生活面、地鎮遺構の他に18世紀代の可能性がある火災に伴う整地層などを確認した。Ⅰ区南側(敷地中央部)では火災による整地層は確認できないが、多数の井戸や土坑が切り合うなど北側とは様相が異なる。Ⅱ区はⅠ区南半同様に多数の井戸と土坑、溝のほか火災に伴う廃棄土坑などを確認した。

溝は調査区の南端からⅠ区中央部まで確認し、この溝の東西では遺構の分布、盛土に使用した土などが異なるため、区画溝の可能性が考えられる。遺物は廃棄土坑から多量の瓦の他に陶磁器、瓦器等が出土した。調査区の北側、中央、南側、南西側とそれぞれ盛土方法や遺構の分布が異なっており、近世の土地利用などを把握する上で重要である。



1. 調査地点の位置 (60 舞鶴 2888 S=1/8,000)



2. 調査区南半全景 (東から)

1903 博多遺跡群第 226 次調査 (HKT226)

所在地	博多区綱場町 107-1、107-2、108
調査原因	共同住宅
調査期間	2019.4.8 ~ 2019.6.20
調査面積	78.1㎡
担当者	松崎友理
処置	記録保存

調査の概要

本調査地は遺跡範囲中央の北側、「息浜」の南側端部付近に位置する。対象範囲西側をⅠ区、東側をⅡ区と設定した。Ⅰ区Ⅰ面の南側では固く締まる黄褐色土が厚く堆積し、黄褐色土周囲には布掘の柱穴列にともなう根石が多数確認され、黄褐色土で土間を形成したとみられる。Ⅰ区Ⅲ面の北側では標高約 1.7m で天板付の木樋が検出された。さらに標高約 1.3~1.4m と標高約 1.0m で、横板と杭が東西方向に並列した状態で検出された。横板の北側（内側）には白色砂が敷かれ、その上には汚泥と粗砂で形成された客土が堆積する。標高 1.0m の段階まで一度埋め立て、その後約 20cm 北側に横板と杭を打ち込み、標高約 1.3 ~ 1.4m まで埋め立てたと考えられる。出土遺物から 14 世紀代と推定される。

遺物は土師器、輸入陶磁器、木製品、土製品、骨等がコンテナケース 70 箱分出土した。



1. 調査地点の位置 (48 千代・博多 0121 S=1/8,000)



2. 天板付木樋全景 (南東から)

1904 博多遺跡群第 227 次調査 (HKT227)

所在地 博多区中呉服町 56 番
調査原因 事務所建設
調査期間 2019.5.8 ~ 2019.5.13
調査面積 82.0㎡
担当者 田上勇一郎・中尾祐太
処置 記録保存

調査の概要

第 227 次調査地点は博多浜と息浜の接続部周辺の息浜側に位置する。以前の建物等で広範囲に攪乱を受けており、上層の遺構は残っていなかったが、標高 2 m 以下の砂丘面では一部遺構が残存していることが確認され調査を行った。

調査では 12 世紀前半から 13 世紀後半の土坑、井戸、ピット等の遺構が検出された。中央部で発見された井戸は一度掘り直されており、いずれも木桶を井戸枠にしていた。鎌倉時代、13 世紀後半のものと考えられる。

中国産の青磁、白磁、陶器や朝鮮半島産の陶磁器のほか、瓦器碗や土師器などがコンテナケース 2 箱分出土している。

調査の成果として中世港湾都市博多の一角を確認することができた。今回の調査地点では平安時代後期の 12 世紀前半より人々の生活が始まったことが判明した。



1. 調査地点の位置 (48 千代・博多 0121 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (南東から)

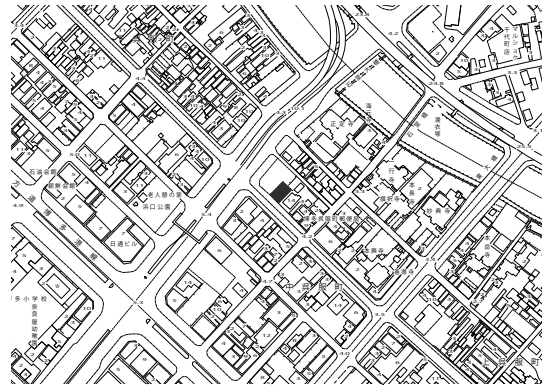
1905 博多遺跡群第 228 次調査 (HKT228)

所在地	博多区中呉服町 183 番
調査原因	共同住宅
調査期間	2019.4.22 ~ 2019.6.25
調査面積	160.0㎡
担当者	吉田大輔
処置	記録保存

調査の概要

第 228 次調査地は、博多遺跡群が展開する砂丘列のうち、最も海側に位置する「息浜」の東側に立地する。現在の標高は 4.9 m で、中世段階には砂丘の東側斜面に位置し、南側と東側に向かって傾斜していたと考えられている。

調査では、標高 3.6~3.7 m 程度の第 1 面、標高 3.2~3.5 m の第 2 面の二面の遺構面について発掘調査を実施した。第 1 面では、中世後期から近世、第 2 面では 14~16 世紀と考えられる遺構群を検出した。検出した主な遺構は、掘立柱建物 2 棟、石組遺構 2 基、廃棄土坑 1 基、土坑 50 基、ピット多数である。出土遺物は、近世の国産陶磁器や土師器等、中世の輸入陶磁器等がある。検出された掘立柱建物や石組遺構の軸はやや東に振れており、町筋の方位を示す可能性があり、太閤町割やそれ以前の中世「息浜」の町筋等を検討するうえでの重要な成果を得ることができた。



1. 調査地点の位置 (48 千代・博多 0121 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (南西から)

1906 博多遺跡群第 225 次調査 (HKT225)

所在地	博多区店屋町 20-1・2、21-1・2、22-11・12
調査原因	ホテル建設
調査期間	2019.4.1 ~ 2019.6.12
調査面積	128.4㎡
担当者	藏富士寛
処置	記録保存

調査の概要

第 225 次調査地点は博多浜の北端部にあたり、近隣では第 40 次調査、第 161 次調査などの調査が行なわれている。

調査は標高 2.3 m 前後から開始し、11~13 世紀を中心とする遺構、遺物を検出した。標高 2 m 以下は自然堆積層であり、白磁を中心とする陶磁器や木製品が多量に含まれている。調査では複数の遺構面で井戸、土坑、柱穴、石敷等の遺構を確認した。井戸は計 6 基を検出し、その内には井戸側瓦組が 1 基、桶組が 3 基がある。前者は近世段階、後者は 13 世紀頃に位置付けられる。遺物は中国製陶磁器や土師杯・皿、箸・下駄・櫛・板材といった木製品を中心とし、コンテナケースで 60 箱分が出土した。

今回の調査により、砂丘縁辺部における人々の生活の様子が明らかとなった。出土遺物も多く、博多遺跡群における人々の活発な活動をうかがうことができる。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (北西から)

1907 吉塚遺跡第 18 次調査 (YSZ18)

所在地	博多区吉塚3丁目360番1の一部
調査原因	店舗建設
調査期間	2019.4.12～2019.6.6
調査面積	230.3㎡
担当者	三浦悠葵
処置	記録保存

調査の概要

第18次調査地は遺跡範囲の北東端に位置する。南東側で行われた第5次調査では飛鳥時代を中心とした遺構と土器器・須恵器などが確認されている。

調査では溝2条と井戸2基、土壙8期の他多数のピット等の遺構を検出した。溝と井戸は共に古代のものであり、2基の井戸の基底にはそれぞれ木製の井戸枠が残存していた。遺物は縄文時代後晩土器、弥生時代中期後半から後期前半の甕や壺、器台、石包丁など、古墳時代から古代にかけるの土師器の甕、高坏、須恵器の坏などが出土しており、その他ごくわずかに青磁等の陶磁器小片が出土した。以上より、本調査地とその周辺では、明確な遺構は見られないものの縄文時代後晩期、弥生時代には人の活動があったことが想定される、古墳時代から中世にかけて集落が営まれ知多ことが判明した。



1. 調査地点の位置 (25 吉塚 0123 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (南東から)

1908 宝台遺跡第4次調査 (TKD4)

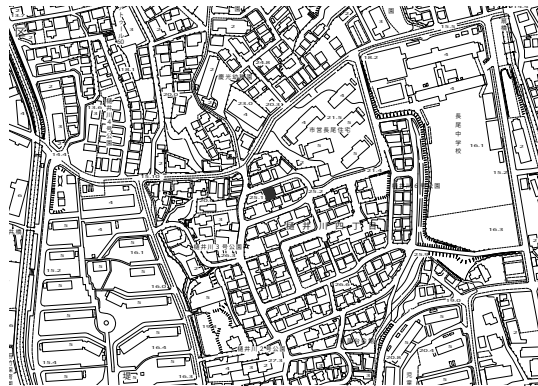
所在地	城南区樋井川4丁目367番13
調査原因	専用住宅建設
調査期間	2019.4.12～2019.4.24
調査面積	68.0㎡
担当者	上角智希
処置	記録保存

調査の概要

福岡市の中央に鴻ノ巣山を中心とする平尾丘陵（高度60～100m）があり、南は油山麓へと繋がっている。この南北に貫く丘陵地帯の東側が福岡平野、西側が早良平野となっている。宝台遺跡は平尾丘陵の一部である上長尾丘陵に立地する。

表土を50cm程度除去すると、橙色のローム層が現れ、この面で遺構を検出した。検出した遺構は、弥生時代の柱穴・小ピット約20基で、1×2間の掘立柱建物1棟を復元できた。出土した遺物は弥生土器と黒曜石でコンテナ1箱分である。いずれも小片で図化できるものは少ない。

丘陵頂部はさほど広い面積がないが、周辺調査成果と合わせて該期の小さな集落が立地していたものと推測される。



1. 調査地点の位置 (63 長尾 0208 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (北から)

1909 博多遺跡群第 229 次調査 (HKT229)

所在地	博多区店屋町 16 番 1 他 8 筆
調査原因	ホテル建設
調査期間	2019.4.15 ~ 2019.7.26
調査面積	201m ²
担当者	常松幹雄
処置	記録保存

調査の概要

第 229 次調査地点は、博多浜の北西部、海側に緩やかに傾斜する標高 5.3 m の地点にあたる。第 1 面は地表から 1.8 m 下の最初の生活面では厚さ 0.6 m の土蔵の土壁をささえる石基礎が検出された。その北東の赤い焼土付近では、無文銭が 30 枚以上出土した。銅を加工する工房跡とみられ、無文銭の流通が終わる頃の様子を示すものとして重要である。室町時代後期の 15・16 世紀頃と推定される。地表から 2.5 m 下の第 2 面では、南北にのびる幅 5 m ほどの道路跡が確認された。南北にのびる道路跡はこれまでの調査成果を裏づけるものとして注目される。地表から 3.0 m 下の第 3 面では鎌倉時代の 7 基の井戸跡が検出された。直径 0.6 m ほどの底のない桶を重ねる構造と推定される。

今回の調査で検出した遺構と遺物から、中世の博多を解明するうえで重要な所見がえられた。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (北東から)

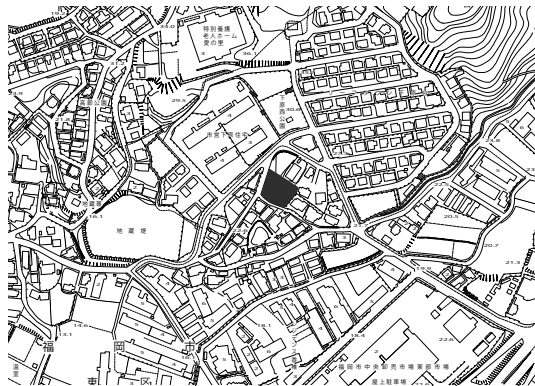
1910 高節遺跡第2次調査 (TKF2)

所在地	東区下原4丁目907-6
調査原因	宅地造成
調査期間	2019.4.22～2019.9.10
調査面積	544㎡
担当者	中園将祥
処置	記録保存

調査の概要

高節遺跡は、標高30m前後の丘陵尾根部分に立地する遺跡である。昨年度の第1次調査(調査番号1812)に引き続き実施した第2次調査では、古墳3基を検出した。調査区東端で検出した1号墳は6世紀後半の直径約26mの円墳(前方後円墳の可能性もあり)、2・3号墳は7世紀前半の直径約13~17mの規模の円墳であった。1・2号墳には、天井部分の石や側壁の石の一部は盗掘により抜き取られていたが、石室が検出されており、残存状況は良好であった。遺物としては、石室及び墳丘から古墳に伴う副葬品、祭祀用としての須恵器・土師器が100点以上出土した。

今回の調査では、6世紀後半から7世紀前半の古墳が検出されたが、周辺にはこの時期の集落跡遺跡は現在知られておらず、今後の古墳時代における当遺跡周辺の環境を考える上で重要な調査となった。



1. 調査地点の位置 (16 唐ノ原 2741 S=1/8,000)



2. 3号墳石室全景(南から)

1911 博多遺跡群第 230 次調査 (HKT230)

所在地	博多区上呉服町 170 番、171 番
調査原因	ホテル建設
調査期間	2019.5.22 ~ 2019.8.10
調査面積	100m ²
担当者	木下博文
処置	記録保存

調査の概要

博多遺跡群は博多湾に面した三列の東西方向の砂丘上に立地する。第 230 次調査地点は、遺跡の中央北寄りに位置し、内陸の砂丘北東部にあたる。聖福寺の寺中町の範囲内である。近隣地では 140 次、107 次、74 次調査が実施され、13 世紀末～14 世紀初の道路、12 世紀前半の経塚などが検出されている。

今回の調査では計 4 面の調査をし、中世期の柱穴・土坑・井戸・溝などを検出した。標高 4.0 m にあたる第 2 面では、灰褐色土による整地層を確認し、それ以下の層では 13 世紀前半の青磁碗が出土していることから、整地の年代が 13 世紀後半であることが判明した。第 2 面で検出した土坑からはクジラまたはイルカの椎骨がまとまって出土している。遺物はコンテナケース 50 箱分の貿易陶磁器・土師器類等が出土した。



1. 調査地点の位置 (48 千代・博多 0121 S=1/8,000)



2. 西側調査区全景 (北から)

1912 名島城跡第8次調査 (NZE8)

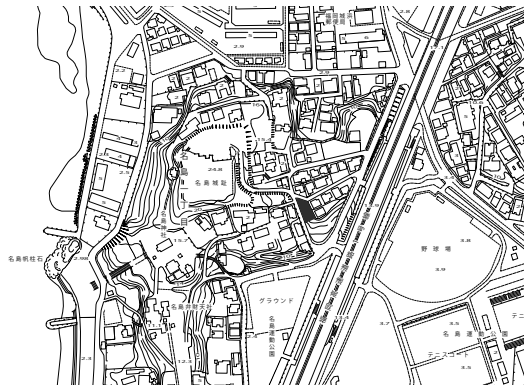
所在地	東区名島1丁目 2414-7、2420-92
調査原因	共同住宅建設
調査期間	2019.5.13～2019.5.31
調査面積	24m ²
担当者	佐藤一郎
処置	記録保存

調査の概要

第8次調査地点は名島城本丸の東側、中央から南側に開く谷の東斜面に位置。石垣を延長3.6m 検出した。40~80cmの角礫を用い、基底部から2段分、高さ1m前後が残る。

石垣の面には裏込めに用いられた拳大~人頭大の礫群がみられた。検出された石垣の南端から西側にかけてL字に裏込めとみられる礫群が広がり、石垣が南で折れ西へ延びていたと推定される。石垣基底部下で地山の風化頁岩となり、基底部の石垣のレベルまでは造成土が縞状に堆積する。現況では2段に造成されており、石垣は上段の平坦部で検出された。下段は大きく削平を受けている。造成土上面の土砂・転石除去の際、瓦がコンテナ3箱分、他に中国明時代の青花片や国産の土師器片が数点出土した。

調査で検出された石垣はその下部にとどまっており、上部は福岡城築城の際に、石材が抜き取られと見られる。



1. 調査地点の位置 (32 名島 0115 S=1/8,000)



2. 石垣基底部検出状況 (南西から)

1913 福岡城下町遺跡第4次調査 (FUM4)

所在地	中央区赤坂1丁目175-1～3
調査原因	共同住宅建設
調査期間	2019.5.15～2019.6.14
調査面積	195.04㎡
担当者	加藤良彦
処置	記録保存

調査の概要

第4次調査地は遺跡南西部に位置し、近世福岡藩上級家臣の屋敷地、後期には福岡藩郡役所が移築された敷地内に位置し、1次調査区の西に隣接する。標高約2mの砂丘砂上面で、江戸後期の枯山水庭園池2基、土塋21基、井戸1基、溝2条を検出した。枯山水池は径9m程の大型土塋を被熱瓦を含む多量の瓦片で狭めて、中央に陸橋を設けた幅2.5～4m程の二つの枯池に改築し表面を粘質土で被覆する。底面は瓦片を露出し、南岸に石積を犬走を構築して露出し景色としている。文献では文化12(1812)年中老の斎藤家屋敷が火災にあい、文政元(1814)年、城内にあった郡役所が移築されており、枯山水の構築状況は家老屋敷の火事場処理に適応し、郡役所開設時の造作の可能性が高い。

遺物は織部様式向付や茶道具、文具が目立ち、家老屋敷・郡役所の裏付けとなる。



1. 調査地点の位置 (60 舞鶴 2888 S=1/8,000)



2. 枯山水庭園状遺構検出状況 (北東から)

1914 箱崎遺跡第 96 次調査 (HKZ96)

所在地	東区箱崎 1 丁目 2928 番、2929 番
調査原因	共同住宅建設
調査期間	2019.6.3 ~ 2019.9.21
調査面積	482m ²
担当者	佐藤一郎
処置	記録保存

調査の概要

第 96 次調査地点は遺跡範囲の北西、砂丘前面域の最高部よりやや下がった位置に当たる。標高 3.0m 前後の黄灰色砂上面で、12 世紀後半~13 世紀後半の溝 6 条、井戸 15 基、土坑 35 基、柱穴・ピット状遺構 400 個余りを検出した。溝はいずれも幅 0.3m 前後で、1 条を除き東に 30° 振れた現況の町割りと同じ方位である。土坑は径 1~2m の不整円形、楕円形のものがほとんどで、多くは廃棄土坑とみられる。土師器の多くは神饌用とみられる。柱穴・ピット状遺構は後世の井戸や土坑等に切られるが、建物や柱列として 10 棟ほどまとまられた。現況の町割りと同じ方位の一群と、さらに東に 10° 振れる一群とに大別される。

遺構から出土した遺物の大半は土師器であるが、13 世紀後半の遺構からは博多遺跡群でも希少な南宋後半の龍泉窯青磁片が、高い頻度で見られる。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (北から)

1915 博多遺跡群第 231 次調査 (HKT231)

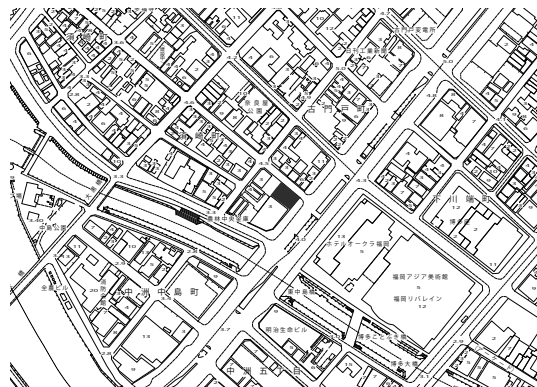
所在地	博多区須崎町 16-1~3、17、31-1、31-2、32
調査原因	ホテル建設
調査期間	2019.6.10 ~ 2019.11.1
調査面積	315m ²
担当者	上角智希
処置	記録保存

調査の概要

第 231 次調査地点は博多遺跡群の北西部、息浜の西側海岸線付近に位置する。これまでの発掘調査や文献史料から、中世前期(平安時代後期~鎌倉時代)の時期にこの一帯で人々が生活を始めたことがわかっている。

調査では 12 世紀代から江戸時代までの堆積層を 5 面にわけて面ごとに遺構を確認した。最下層となる標高 1.2 m 付近の砂丘面で遺構面を検出し、12 世紀頃の貿易陶磁器類を確認した。その後、近世になってから盛土造成を繰り返しながら集落化していく様子が確認され、調査地点は 12 世紀代には那珂川に向かって緩やかに下る海岸線付近に位置していたことが判明した。

遺物は土師器、貿易陶磁器類、瓦器などがコンテナケース 69 箱分出土した。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (南東から)

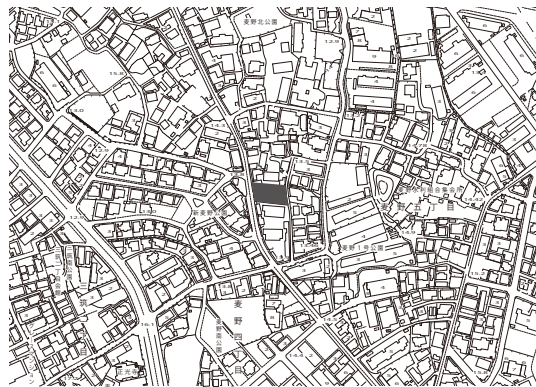
1916 麦野 A 遺跡第 27 次調査 (MGA27)

所在地 博多区麦野 5 丁目 131517185054
調査原因 共同住宅建設
調査期間 2019.5.10 ~ 2019.5.17
調査面積 180m²
担当者 上角智希
処置 記録保存

調査の概要

麦野 A 遺跡は御笠川とその支流である諸岡川にはさまれた中位段丘上に立地する。本調査地点では標高 14.2 m 付近

(西側道路面 + 40cm) で鳥栖ロームになり、この面で遺構を検出した。遺構密度はまばらで、奈良時代の竪穴住居跡 1 軒、不整形の土坑 1 基、柱穴 2 基を確認したのみである。竪穴住居の深さが約 10cm しか残っていないことから、旧地表面はかなり削平されていると思われる。古代の遺物がコンテナ 1 箱分出土した。これらの遺構から、第 27 次調査地点付近にも当該期の集落が展開していたことが判明した。麦野 A 遺跡の 4 次・14 次調査地点では 10 件以上の竪穴住居が確認されているが、両調査地点は 100m 以上離れており、同一集落としては認定しがたい。遺跡範囲内に同時期に小規模集落が点在している社会構成であったと考えられる。



1. 調査地点の位置 (12' 麦野 0048-S=1/8,000)



2. 北側調査区西半全景 (西から)

1917 箱崎遺跡第 97 次調査 (HKZ97)

所在地	東区箱崎 1 丁目 2535、2534、2560
調査原因	店舗建設
調査期間	2019.6.17 ~ 2019.8.9
調査面積	256m ²
担当者	神啓崇
処置	記録保存

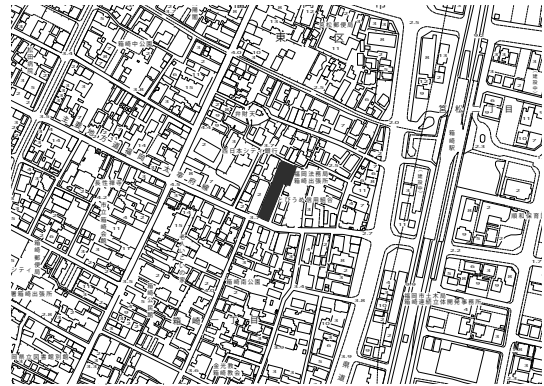
調査の概要

箱崎遺跡は博多湾岸の砂丘上に立地し、中世を中心とする遺跡である。第 97 次調査地点は遺跡範囲の北東に位置し、南北に狭長な敷地である。

調査では、中世前半の井戸・土坑・溝・多数の柱穴等の遺構を検出した。井戸遺構は調査区の南側 3 分の 2 の範囲に集中して分布し、計 7 基を確認した。井戸遺構の時期はいずれも 12~13 世紀代におさまる。調査区南側に井戸、北側に柱穴群が集中しており、当該期の町屋の配置・町割りを考えるうえで重要な成果を得た。

中世以前に遡る遺物として、弥生時代中期初頭甕小片や古墳時代後期の須恵器坏身・甕胴部片も少量出ているが、弥生～古墳時代の遺構は未確認である。

遺物はコンテナケース 11 箱分の弥生土器、土師器、貿易陶磁器類等が出土した。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (南西から)

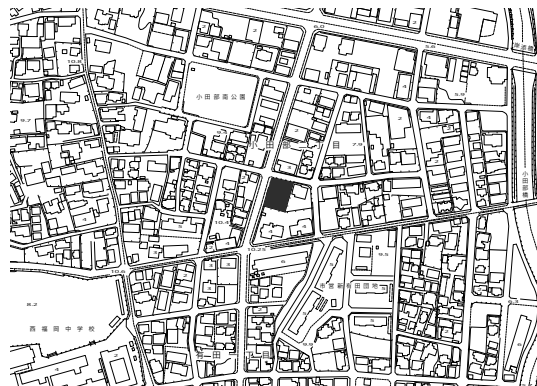
1918 有田遺跡群第 269 次調査 (ART269)

所在地 早良区小田部 2 丁目 93 番 1、93 番 2
調査原因 駐車場整備
調査期間 2019.6.13 ~ 2019.6.19
調査面積 691m²
担当者 池田祐司
処置 記録保存

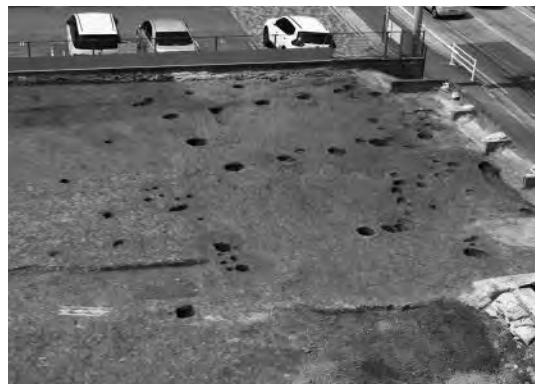
調査の概要

対象地は有田台地頂部から北に延びる丘陵の上に位置する。調査地点周辺は過去の開発により地下げが行われており、80cmから 2 mの比高差がある。調査は現物の重機で表土を掘削・搬出したのちに着手した。

調査区は西側中央に階段が設けられた部分と北側の堀車庫部分の遺構面が既に失われている。また、対象地全体、特に北側と西側は過去に削平が行われたものと考えられ遺構がほとんど見られない。遺構面は鳥栖ローム上面で北西に向かって緩やかに下がり、南東端と北西端の比高差は55cmを測る。調査で検出した遺構は 8 世紀中頃もしくはそれ以降と考えられる 2 × 4 間以上の庇付掘立柱建物 1 棟、弥生時代中期と古代から中世と考えられる土坑 2 基、弥生時代中期を中心としたピット群である。



1. 調査地点の位置 (82 原 0309 S=1/8,000)



2. 調査区南西部全景 (東北から)

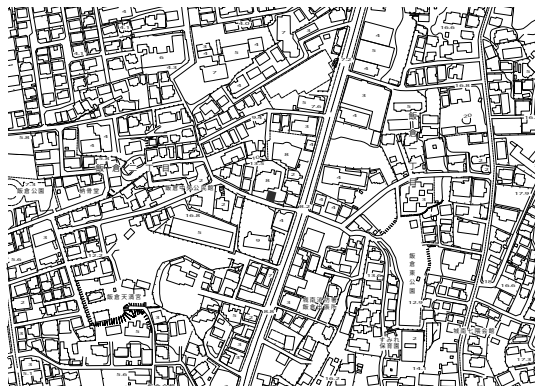
1919 飯倉 A 遺跡第 4 次調査 (IKR-A4)

所在地 早良区飯倉 2 丁目 449 番 8
調査原因 戸建住宅建設
調査期間 2019.6.12 ~ 2019.7.12
調査面積 61m²
担当者 三浦萌
処置 記録保存

調査の概要

飯倉 A 遺跡は、油山から派生する低丘陵である飯倉丘陵上に立地している弥生時代から古代にわたる複合遺跡である。本調査地は飯倉 A 遺跡のほぼ中央に位置する。

主に調査区北側で遺構が確認されており、現況は西から東へと傾斜する地形となっている。南側は過去の削平により遺構は失われていた。弥生時代末から古墳時代初期の竪穴式住居跡 2 軒と土坑 1 基を確認した。調査区西側において行われた第 1 次調査においては、弥生時代後期から古墳時代初期にかけての竪穴式住居が発見されており、当該時期の集落がさらに東側にまで広がっていることが確認できた。



1. 調査地点の位置 (73 茶山 0245 S=1/8,000)



2. 調査区北側全景 (南東から)

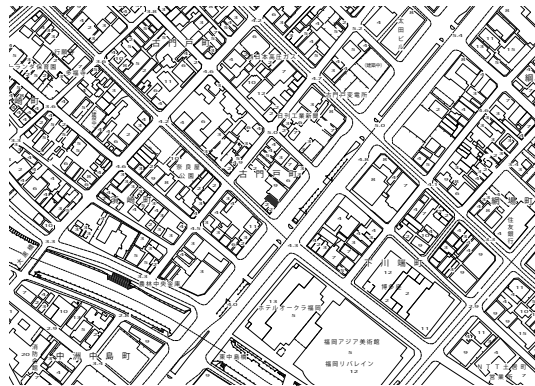
1920 博多遺跡群第 232 次調査 (HKT232)

所在地	博多区古門戸町 24 番
調査原因	共同住宅建設
調査期間	2019.9.3 ~ 2019.10.17
調査面積	76.527m ²
担当者	常松幹雄
処置	記録保存

調査の概要

博多遺跡群は、博多浜と北側の沖ノ浜が大博通と明治通が交差する付近でつながっている。調査地は、沖ノ浜の北西部の西側に緩やかに傾斜する標高 4.4m ほどの地点にあたる。

第 1 面では中世末頃の石組井戸と近世の石積土坑が検出された。第 2 面では室町時代後期の土器の細片を多く混入した整地面を確認できた。第 3 面の暗黄灰色砂層では北側で素掘りの井戸が検出された。また東西方向にのびる鎌倉時代の溝状遺構を確認した。第 4 面の黄灰色砂層では第 3 面の溝に切られた砂層を掘りこんだ土坑が検出された。12・13 世紀の平安時代～鎌倉時代頃と考えられる。第 4 面の土坑から出土した凝灰岩製の石造物は、須弥壇とよばれる台座付近の破片である。下框の明瞭な段や足端部の調整など、同種の石造物のなかでも古い特徴がうかがえる。出土遺物はコンテナケース 30 箱分の貿易陶磁器類・土師器等が出土した。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (北から)

1921 重留 B 遺跡第 1 次調査 (SGB1)

所在地 早良区重留 5 丁目 301-1
調査原因 戸建住宅建設
調査期間 2019.6.5 ~ 2019.6.18
調査面積 41m²
担当者 久住猛雄
処置 記録保存

調査の概要

重留 B 遺跡は、最近確認された周知の埋蔵文化財包蔵地である。主に弥生時代から古墳時代の遺跡である重留村下遺跡の南東に接し、早良平野東側の油山山麓西側給料裾部の扇状地斜面地形に立地している。また東側の丘陵には重留古墳群がある。

調査地点は、西側に低くなる緩斜面上で平坦に造成・整地された土地で、現地の標高は 42.2 ~ 42.5m 前後である。地表下 60 ~ 120cm 前後で遺構を検出した。

検出した遺構は中世の竪穴状遺構 2 基とピットである。

出土遺物はパンケース 1 箱分がある。中世の土師器、瓦質土器、陶磁器などの破片や、近世以降の陶磁器片がある。その他、黒曜石剥片が 1 点ある。



1. 調査地点の位置 (85 入部 2896 S=1/8,000)



2. SX001 竪穴遺構全景 (南から)

1922 箱崎遺跡第 98 次調査 (HKZ98)

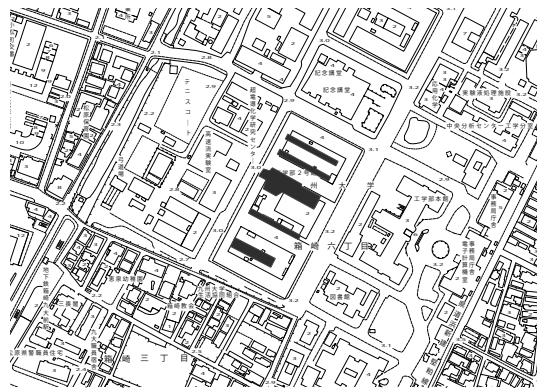
所在地 東区箱崎 6 丁目 10-1 (旧工学部 2 号館跡地)
調査原因 学術研究 (記録保存・HZK1901)
調査期間 2019.6.12 ~ 2020.2.21
調査面積 2500㎡
担当者 九州大学埋蔵文化財調査室
処置 記録保存

調査の概要

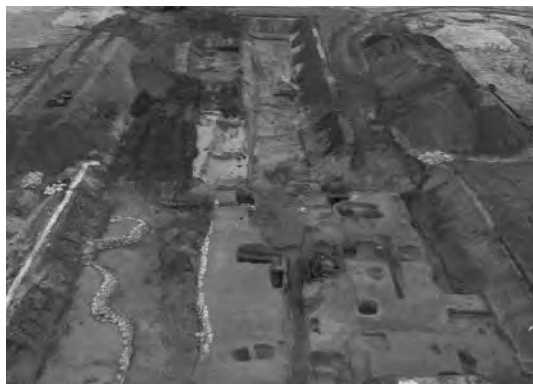
調査地は九州大学箱崎キャンパスの南部、旧工学部二号館跡地に位置する。10m × 50m の調査区を 5 箇所設けた。

全体的に攪乱が多く遺構の残りは良くないが、各調査区で中世の土坑や溝を複数検出した。ただし、遺構・遺物の密度および量は調査面積に比して多くはない。C 区では東西方向および南北方向にのびる幅 1 ~ 2 m 程の溝を検出した。現状では元寇防塁廃絶後に形成された 14 世紀後半 ~ 15 世紀代の区画溝と推定している。

また、各調査区で、自然堆積層を切り込んでいる溝状遺構を確認した。溝状遺構は幅 15m 程で、各調査区を跨いで北東から南西方向に続いている。形状や堆積の状況などから、この溝状遺構は、当調査室のこれまでの調査で確認してきた、元寇防塁に伴う溝状遺構の可能性が高いと判断した。なお、元寇防塁の石積は、本調査区では確認できていない。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 S=1/8,000)



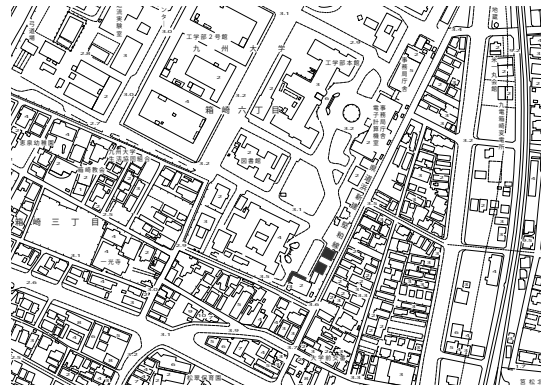
2. 調査区全景 (西から)

1923 箱崎遺跡第 99 次調査 (HKZ99)

所在地 東区箱崎6丁目10-1 (旧応力研生産研跡地)
調査原因 学術研究 (記録保存・HZK1903)
調査期間 2019.9.18 ~ 2020.4.1
調査面積 1,170㎡
担当者 九州大学埋蔵文化財調査室
処置 記録保存

調査の概要

第 99 次調査地点 (HZK1903) は、箱崎キャンパス南東部に位置する。応力研生産研本館の建物基礎撤去にともない調査が行われた。建物跡の北西部分に A 区、南西に B 区、北東に C1 区、南東に C2 区の 4 調査区をそれぞれ設けた。A・B 区では合計 20 基以上の中世の井戸が出土した。一方で、C1 区・C2 区では井戸は 1 基にとどまった。これは浜堤および鞍部の位置と関係するものと考えられ、地形復原に寄与する結果と言える。C1 区・C2 区では、100 基以上の土坑・ピットが検出された。筥崎宮に続く大学通りに近く、当時から地盤が安定していた場所と推測される。また、東西方向に延びる区画溝も 3 条検出されている。遺物整理は今後実施するが、龍泉窯系の青磁碗が数多く検出されているほか、馬の歯が 3 つの土坑から検出された。調査の成果は中世箱崎北縁部の様相を把握するうえで、極めて重要である。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (西から)

1924 史跡福岡城跡第 78 次調査 (FUE78)

所在地	中央区城内 5-2
調査原因	史跡整備
調査期間	2019.11.26 ~ 継続中
調査面積	303m ²
担当者	井上繭子・赤坂亨 史跡整備活用課
処置	現状保存

調査の概要

福岡城跡祈念櫓石垣は福岡城本丸の北東隅に位置している。鬼門封じのために祈念櫓が建立された石垣であるが、経年により石の孕み出しが見られ、崩壊の危険性が高まったために石垣の積み直し工事を行うこととなった。石垣の解体に先立ち、石垣天端の発掘調査を行ったところ、祈念櫓の礎石列が確認された。基盤は丘陵由来の粘質土を版築状に整地しており、礎石下は栗石を充填して基礎を作っている。天端の発掘調査後に石垣の解体を行った。石垣の積み方は打ち込み剥ぎで、築石には加工した花崗岩が用いられている。解体時に判明した状況は、背面は栗石が2mほどの幅で充填され、さらに内側には福岡城が築造された丘陵由来の粘質土が盛土として充填されている。

現在は石の積み上げを行っている。令和3年度に竣工予定である。



1. 調査地点の位置 (60 舞鶴 0193 S=1/8,000)



2. 東側調査区全景 (南西から)

1925 箱崎遺跡第 100 次調査 (HKZ100)

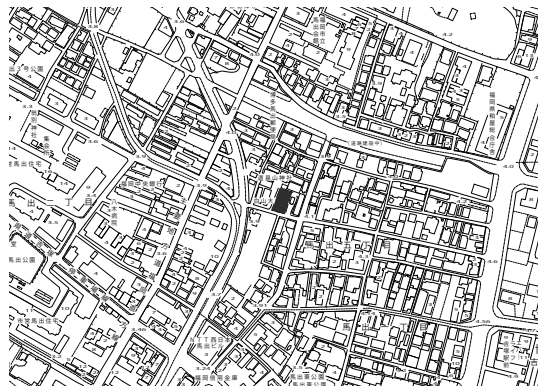
所在地	東区馬出5丁目365番、369番
調査原因	共同住宅建設
調査期間	2019.6.17～2019.7.30
調査面積	101.5㎡
担当者	三浦悠葵
処置	記録保存

調査の概要

箱崎遺跡は博多湾に面した砂丘上に位置する。第100次調査地点は、砂丘の南西側に立地し、鞍部の谷に差し掛かる場所に位置する。

調査では、地表から約1m掘り下げた地点で遺構面を検出した。遺構は溝1条と土壇、柱穴、多数のピット等を検出した。溝と柱穴、ピットの多くは中世の遺構であり、一部の柱穴には根石がみられた。これらの遺構からは12世紀から13世紀を中心とした白磁、龍泉窯系青磁、土師皿、瓦器碗、石鍋、滑石製石錘などが出土した。土壇と一部のピットは近世のものであり、銭や18世紀頃の肥前系陶磁器などが出土した。

以上より、本調査地とその周辺地域では、12～13世紀をピークとして、中世から近世の集落が形成されていたと考えられる。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (南西から)

1926 麦野 A 遺跡第 28 次調査 (MGA28)

所在地	博多区麦野 1 丁目 27-13
調査原因	共同住宅建設
調査期間	2019.7.1 ~ 2019.8.1
調査面積	206㎡
担当者	今井隆博
処置	記録保存

調査の概要

第 28 次調査地点は遺跡のほぼ中央に位置する。調査前は東西両側の道路よりも高く、標高 15.5 m 前後であった。表土を除去した後の鳥栖ロームの上面で遺構を検出した。遺構面の標高は調査区東端で 14.7 m、調査区西端で 14.0 m 前後で、南西に向かって低くなる緩斜面である。検出した遺構は、古代の竪穴住居 1 軒、柱穴多数、時期不明の掘立柱建物 1 棟である。竪穴住居は歪んだ方形で、西壁にカマドを有する。カマドは破壊され、周辺に白色粘土・焼土が散在し、土師器・須恵器の破片が投棄されていた。出土遺物は古代の土師器・須恵器が主で、コンテナケース 2 箱分である。

今回の調査では、古代の集落の広がりを確認することができた。一方、東側に位置する 6 次調査では中世の城館を囲む方形区画の堀と推定される溝が検出されているが、本地点では明確な中世の遺構は見られなかった。



1. 調査地点の位置 (12 麦野 0048 S=1/8,000)



2. 南側調査区全景 (東から)

1927 飯倉 C 遺跡第 8 次調査 (IKR-C8)

所在地	城南区七隈 2 丁目 834 番 3 の一部
調査原因	専用住宅建設
調査期間	2019.7.1 ~ 2019.7.22
調査面積	91.1m ²
担当者	藏富士寛
処置	記録保存

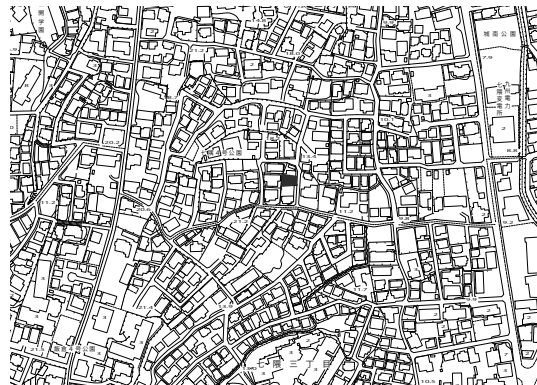
調査の概要

飯倉 C 遺跡は、早良平野の東側にあり、南北方向に細長く伸びる低丘陵である飯倉丘陵の北東側に位置する。

第 8 次調査地点は遺跡範囲の東端、丘陵の東側斜面にあたる。周辺では北側隣地で第 9 次調査、北側近くで第 5 次調査が行なわれている。

調査地点は過去の開発等により激しく地形改変を受けており、遺構が確認できるのは調査区東半の傾斜地のみである。主な遺構として、弥生時代後期の竪穴住居、古墳時代前期の溝を挙げることができる。竪穴住居は方形プランで、一辺にベッド状遺構を持つ。溝には直線状、及び L 字状をなすものがあり、排水等を目的として建物施設の周囲に巡らし掘削されたものだろう。

遺物は弥生土器・土師器がコンテナケース 1 箱分出土した。



1. 調査地点の位置 (73 茶山 0246 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (東から)

1928 飯倉 C 遺跡第 9 次調査 (IKR-C9)

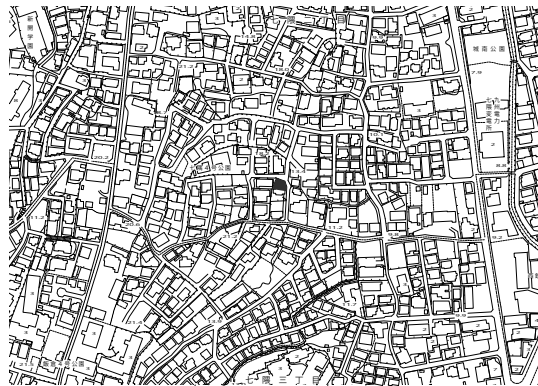
所在地	城南区七隈 2 丁目 834 番 3 の一部
調査原因	戸建住宅建設
調査期間	2019.7.23 ~ 2019.8.9
調査面積	50.3m ²
担当者	藏富士寛
処置	記録保存

調査の概要

飯倉 C 遺跡は、早良平野の東側にあつて南北方向に細長く伸びる低丘陵である飯倉丘陵の北東側に位置する。当調査地点は遺跡の東端、丘陵の東側斜面にあたる。周辺では南側の隣地で第 8 次調査、北側近くで第 5 次調査が行なわれている。

調査地は激しく削平を受けており、遺構が確認できるのは調査区東半の傾斜地のみである。主な遺構として、弥生時代後期の竪穴住居、古墳時代前期・鎌倉時代の溝を挙げることができる。竪穴住居は方形プランで、一辺にベッド状遺構を持つ。古墳時代の溝は幅 30 ~ 40cm ほどで、住居の壁溝、もしくは住居の周囲に巡らしたものだらう。

今後調査資料の整理を行ない、隣接する第 5・8 次調査の成果と重ね合わせることで、集落の具体像がより明らかとなることが期待される。



1. 調査地点の位置 (73 茶山 0246 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (北東から)

1929 那珂遺跡群第 176 次調査 (NAK176)

所在地	博多区那珂一丁目 556 番 1、569 番、568 番
調査原因	専用住宅建設
調査期間	2019.6.28 ~ 2019.7.12
調査面積	126㎡
担当者	朝岡俊也
処置	記録保存

調査の概要

那珂遺跡群は福岡平野の中央部、御笠川と那珂川に挟まれた中低位段丘上に位置する。第 176 次は遺跡範囲のやや北寄りの頂部付近に立地する。

調査地は南東から北西に向かって下る地形を平坦に造成しているため、調査区南東側はすでに削平されており、遺構は残っていなかった。北西側も少し削平されており、検出遺構は 2 基の井戸と 1 条の溝、数基の小穴のみであった。

井戸 2 基は 6 世紀後半～7 世紀に使用されたと考えられる。素掘りと考えられる SE01 では砂利を敷いた階段状のステップが検出され、水汲み用の足場と考えられる。二重の井筒を持ち、釣瓶等を用いて水を汲んだと考えられる SE02 と対照的で、覆屋の存在が示唆される点からも SE01 は祭祀的行為に用いられた井戸の可能性が考えられる。井戸の中に降りていき、水を汲む所作が必要だったのかもしれない。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0085 S=1/8,000)



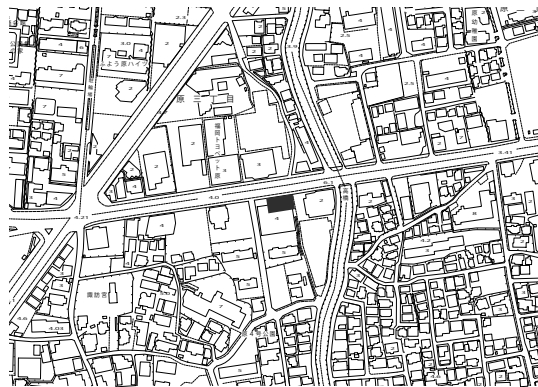
2. 調査区全景 (南から)

1930 原遺跡第 36 次調査 (HAA36)

所在地 早良区原 6 丁目 629 番 1
調査原因 店舗建設
調査期間 2019.7.8 ~ 2019.9.6
調査面積 192m²
担当者 吉田大輔
処置 記録保存

調査の概要

原遺跡は、早良平野の中央を流れる室見川中流の東岸に位置し、標高約 6 ~ 7 m の低位段丘上に広がっている。第 36 次調査地点は、遺跡範囲の北東端にあたる。本調査では、現地表面下約 1 m で遺構を検出した。検出した遺構は、弥生時代中期後半の掘立柱建物 2 棟、土坑 6 基、溝状遺構 2 条、古代・中世 (10 ~ 12 世紀) の井戸、中世 (13 ~ 14 世紀) の掘立柱建物 1 棟以上、小穴多数、自然の落ち込み等である。このうち、弥生時代中期後半の掘立柱建物 2 棟・自然の落ち込みは、南側の 20 次調査で確認されていたものの延長である。出土した遺物は、弥生時代中期後半の土器が最も多く、古代・中世の土師器・青磁片等が少量あり、遺物の総量はコンテナケース 4 箱分と少なかった。今回の調査では、遺跡範囲の北東端部における弥生時代から中世にかけての集落の展開と当該期の様相をうかがえる成果が得られた。



1. 調査地点の位置 (82 原 0311 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (南から)

1931 三宅遺跡群第7次調査 (MYK7)

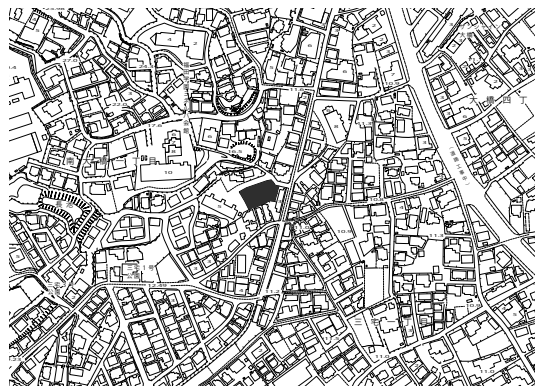
所在地	南区南大橋1丁目 1169-1、1170-4
調査原因	共同住宅
調査期間	2019.7.22～2019.10.25
調査面積	276.0㎡
担当者	三浦萌・加藤良彦
処置	記録保存

調査の概要

三宅遺跡群は主に奈良～平安時代の遺跡によって構成されている遺跡群である。その範囲には三宅瓦窯跡、三宅岩野瓦窯跡、大橋C・D遺跡、三宅A遺跡などが含まれている。今回の調査地は三宅遺跡群第1次調査地点の北東に位置しており、遺跡の端にあたる。

第7次調査では、調査区南西部において2間×3間の掘立柱建物が1棟と土坑やピットが多数確認された。出土遺物は瓦類を中心に須恵器、土師器、円面硯などがあり、時期はおよそ奈良時代である。また調査区東部では水田跡が確認され、出土した遺物などから中世の水田面であると考えられる。

当調査区の南西部では第1次調査が行われており、その際に三宅廃寺に関係するとされる遺構が発見されている。このことから今回の調査において発見された古代の遺構も、三宅廃寺に関連するものである可能性が高い。



1. 調査地点の位置 (39 三宅 2825 S=1/8,000)



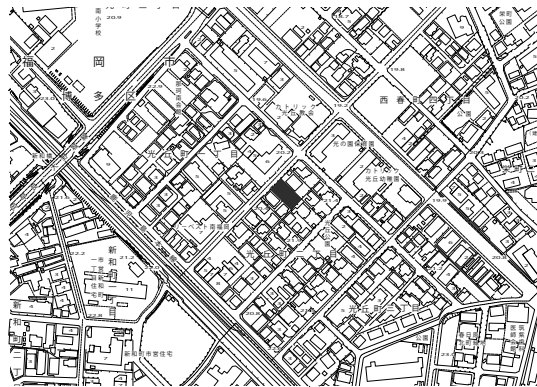
2. 調査区Ⅱ区全景 (東から)

1932 中ノ原遺跡第6次調査 (NHH6)

所在地	博多区光丘町二丁目5番
調査原因	戸建住宅建設
調査期間	2019.7.18～2019.8.9
調査面積	305㎡
担当者	池田祐司
処置	記録保存

調査の概要

第6次調査地点は遺跡範囲西側の丘陵落ち際に位置する。検出した遺構は方形の竪穴遺構3基（住居跡）、土坑3基、ピットである。竪穴遺構は1基が弥生時代中期、2基から8世紀の遺物が出土した。SC021には張り出し部に煙道付きのカマドが付帯していた。このカマドでは廃棄後の白色粘土上ではほぼ完形の須恵器の短頸壺1個、坏2個が出土した。坏の底部外面には「足立寺」とも読める墨書がみられる。土坑SK022は長楕円形の浅いくぼみ状でSC021を切り、8世紀の遺物が出土する。SK023は150×100cm、深さ90cmの規模で落とし穴の可能性が考えられる。出土遺物は主に須恵器、土師器、弥生土器、黒曜石等が出土している。これまでの調査でも8世紀を主とした竪穴遺構が出土しており、奈良期の集落の広がりが見える。



1. 調査地点の位置 (13 雑餉隈 2816 S=1/8,000)



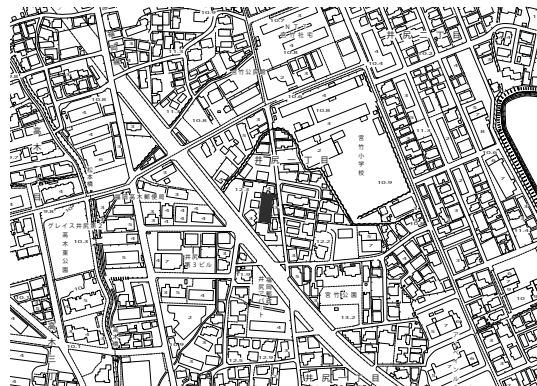
2. 調査区南半全景 (南東から)

1933 井尻 B 遺跡第 44 次調査 (IGB44)

所在地 南区井尻 1 丁目 731 番 1、732 番 4、732 番 12
調査原因 専用住宅建設
調査期間 2019.7.24 ~ 2019.8.18
調査面積 68㎡
担当者 荒牧宏行
処置 記録保存

調査の概要

中位段丘面からなる井尻 B 遺跡の北端に位置する。検出面のローム層は標高 11.4m 前後を測り、北東に向かって緩やかに下降する。検出された主な遺構は弥生中期中頃の甕棺 1 基、弥生後期の竪穴住居跡 2 軒、土壌 1 基、掘立柱建物 2 棟、古代の土壌 2 基である。甕棺墓群は南西に位置した 16 次、17 次 E 区で検出され、墓域が本調査区まで展開していることが判った。しかし、本調査区北側では後期になると竪穴住居跡が築造され、墓域が途切れる。遺構の主軸方位は各時期によって異なる。弥生中期の甕棺は鉢と中型の甕を合口にし、下甕を横穴に挿入している。甕棺の埋置角度は水平に近い。弥生後期の竪穴住居跡は造付と貼付のベッドを有する。掘立柱建物の柱穴は深く、柱痕は径 30 ~ 40cm を測り倉庫が主であろう。古代とみられる土壌 2 基は同じ主軸方位をとるが、規模、深さが大きく異なる。



1. 調査地点の位置 (24 板付 0090 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (南西から)

1934 弥永原遺跡第 16 次調査 (YNB16)

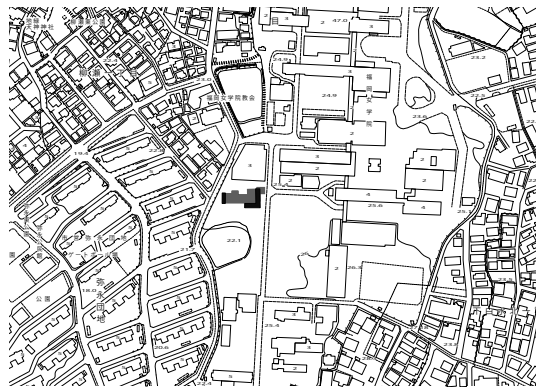
所在地	南区曰佐 3 丁目 42-1
調査原因	学校施設建設
調査期間	2019.8.1 ~ 2019.9.4
調査面積	90m ²
担当者	松崎友理
処置	記録保存

調査の概要

弥永原遺跡第 16 次調査地点は春日市との市境に位置する福岡女学院校内にあり、遺跡範囲の中央部南寄りに位置している。南北にのびる丘陵から西に派生した小丘陵の南側緩斜面に立地し、地表面の標高は約 25.6m を測る。

平成 30 年度に実施した第 15 次調査 (1828) 後の設計変更に伴い建築面積が拡大したため、今回調査では第 15 次に隣接する約 90m²の敷地が対象となった。

検出した遺構は大型甕棺墓 1 基、小型甕棺墓 3 基、木棺墓 4 基、土壙墓 7 基、不明遺構 1 基、溝 2 条などである。また、隣接する第 15 次調査と同様に、小型の甕棺墓と土壙墓は調査地の南東側に集中する傾向がうかがえる。



1. 調査地点の位置 (26 上曰佐 0105 S=1/8,000)



2. 甕棺墓検出状況 (南西から)

1935 博多遺跡群第 233 次調査 (HKT233)

所在地 博多区冷泉町 474-1
調査原因 事務所ビル建設
調査期間 2019.8.19 ~ 2019.9.30
調査面積 43.9㎡
担当者 三浦悠葵
処置 記録保存

調査の概要

博多遺跡群は、那珂川・御笠川の河口に形成された3列の砂丘上に立地しており、第233次調査地点は2列目の砂丘の南端付近に位置する。近隣では北側で第10次・第209次が実施され、南側の第148次では、12世紀後半を中心とした遺構から、土師器、貿易陶磁器、青銅器の鑄型などが出土した。調査では、地表から約3m掘り下げた地点で、15~16世紀の遺構、更に30cm掘り下げた地点で、12~13世紀の遺構を確認した。15~16世紀の層では、大型土壇9基のほか、多数の柱穴、ピットを検出した。大型土壇は廃棄土坑で土師器の皿・碗、白磁・青磁碗、耳壺、鞆の羽口、銭などが出土した。柱穴・ピットからは土師器、白磁、青磁、瓦片などが出土した。以上の調査結果から、本調査地点とその周辺地域には、12~13世紀、15~16世紀を中心とした集落が存在していたことが明らかとなった。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 S=1/8,000)



2. 廃棄土坑内遺物出土状況 (北西から)

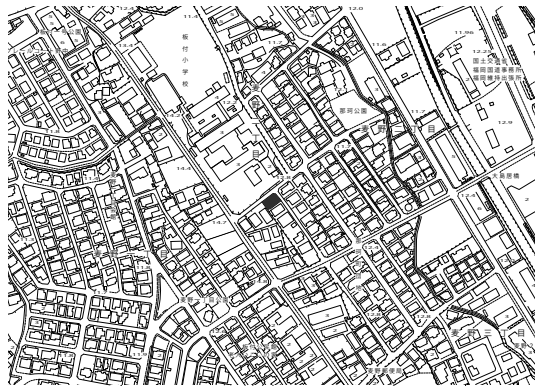
1936 麦野 A 遺跡群第 29 次調査 (MGA29)

所在地 博多区麦野 2 丁目 17-1
調査原因 戸建住宅建設
調査期間 2019.8.19 ~ 2019.8.26
調査面積 61.0㎡
担当者 池田祐司
処置 記録保存

調査の概要

麦野 A 遺跡は北北西に延びる丘陵上に広がり、第 29 次調査地点は丘陵頂部から東へやや下がった緩斜面に位置する。排土置き場の関係から東西に反転して調査を行った。暗茶褐色、黒褐色の表土を除去した鳥栖ローム上面が遺構面で、北へ向かって緩やかに下がり、標高 14.6 ~ 14.3 m である。検出した遺構は溝 1 本とピットで覆土は主に黒褐色土である。遺物はコンテナケース 1 箱弱が出土した。

調査区西端で確認した溝で、ほぼ南北方向に延び、延長 2.9 m を確認した。横断面は逆台形で上端の幅 1.95 m、底の幅 1.4 m、深さ 65cm を測る。壁は急に立ち上がり、確認した場所では特に東側が立つ。時期は少ない遺物から 8 世紀を想定している。周辺の調査、試掘ではその延長は確認できていない。今後の調査で注意する必要がある。



1. 調査地点の位置 (25 井尻 0048 S=1/8,000)



2. 麦野 A 遺跡第 29 次調査区東半全景 (南西から)

1937 博多遺跡群第 234 次調査 (HKT234)

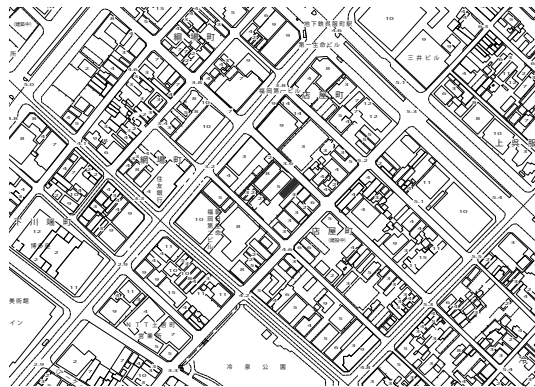
所在地	博多区店屋町 202 番 1、2、203 番、204 番 1
調査原因	ホテル建設
調査期間	2019.8.19 ~ 2019.10.11
調査面積	130.5㎡
担当者	木下博文
処置	記録保存

調査の概要

博多遺跡群は、博多湾に面した 3 列の東西方向の砂丘上に立地する。今回の調査地点は、遺跡の中央部南西に位置し、海寄りの砂丘である沖浜と内陸の砂丘である博多浜に挟まれた谷地形の中にあたる。周辺の調査では中世後期の陶磁器一括埋納遺構や埋め立て遺構が検出されており、中世から近世にかけて一帯が埋め立てられて土地利用がなされる様子が明らかになっている。

第 234 次調査では、計 4 面の調査を実施し、近世の井戸、中世の土坑、ピットを検出した。それ以下は、湧水が起こる砂層となっており、湿地であることを示している。

遺物はコンテナケース 13 箱分の土師器、中世貿易陶磁器、国産陶器類が出土した。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (西から)

1938 博多遺跡群第 235 次調査 (HKT235)

所在地 博多区祇園町 149-4 他 6 筆
調査原因 ホテル建設
調査期間 2019.8.20 ~ 2019.9.25
調査面積 40.0m²
担当者 今井隆博
処置 記録保存

調査の概要

博多遺跡群は御笠川と那珂川に挟まれた博多湾岸の砂丘上に立地し、南北 1.6km、東西 0.9kmの広がりを持つ。今回の調査地点は博多浜の最高所付近にあたる。調査前の標高は約 5.8 m で、4.3 m ~ 3.5 m 付近において 5 面の調査を行った。

検出した遺構は、古代・中世・近世の土坑・溝・柱穴等である。中世の土坑からは、陶磁器が多数出土した。また、第 4 面では古代の土師器・須恵器をまとめて投棄した土坑があり、刀子やハサミ状（トング状）の鉄器も出土した。

本地点からの出土遺物は、古墳時代の土師器、奈良時代の土師器・須恵器、中国製陶磁器、国産陶磁器等で、コンテナケース 30 箱分である。墨書陶磁器には「張」や「綱」といった中国商人に関する文字が見られ、「夏」と思われる文字が書かれた天目碗も出土している。滑石製碗やガラス製丸玉の他、碗形滓や流動滓といった鍛冶関連遺物も出土した。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 S=1/8,000)



2. 西側調査区全景 (南から)

1939 箱崎遺跡第 101 次調査 (HKZ101)

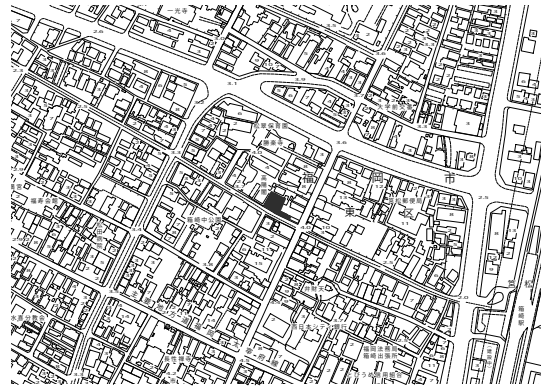
所在地 東区箱崎 3 丁目 2395-5 他 3 筆
調査原因 専用住宅兼共同住宅
調査期間 2019.9.2 ~ 2019.11.8
調査面積 175.0㎡
担当者 神啓崇
処置 記録保存

調査の概要

箱崎遺跡は博多湾岸東側の砂丘上に立地し、中世を中心とする遺跡である。第 101 次調査地点は、遺跡範囲の北東部に位置する。対象地内の建設工事により埋蔵文化財が影響を受ける範囲について調査を実施した。

調査では鎌倉時代から室町時代にかけての町家跡等の痕跡を示す柱穴や土坑、溝等の遺構を確認した。井戸や隣の町家との境界を示す溝、土師器皿・坏の廃棄土坑、馬骨を捨てた溝、土壇墓などを検出した。

遺物はコンテナケース 45 箱分が出土した。土師器が主体だが、白磁・青磁碗、皿も出土している。中世箱崎の街並み・町家のつくりを考えるうえで重要な成果を得た。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 S=1/8,000)



2. 1 区第 2 面全景 (南西から)

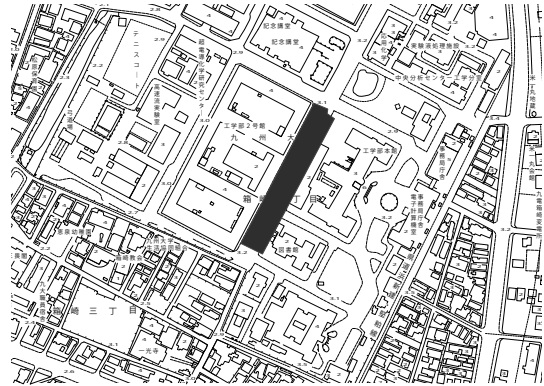
1940 箱崎遺跡第 102 次調査 (HKZ102)

所在地 東区箱崎6丁目10-1
調査原因 都市計画道路建設
調査期間 2019.8.19～2020.2.28
調査面積 2712.76㎡
担当者 藏富士寛
処置 記録保存

調査の概要

調査地点は箱崎遺跡の北側に位置し、現地表下 1.3 m、標高 2.2 m 前後の砂丘面を中心に平安時代終わりから鎌倉時代、室町時代、江戸時代に相当する遺跡の調査を行なった。

検出した遺構には、墓、井戸、溝、土坑、ピット（小穴）などがある。墓は調査で最も注目される遺構であり、その内の 2 基は全身が分かる人骨が確認できた。いずれも木棺を使用し、中国製青磁を副葬しており、12 世紀後半に位置付けることができる。井戸は 7 基程を検出した。井戸側の違いにより 3 種に分類することができ、桶組→石組→瓦組という中世から近世に至る変遷をたどることができる。ピット（小穴）の多くは底面に礎石を持っており、柱穴であることが分かる。建物等の状況は今後の検討課題である。第 92 次調査に続き、今次調査によって箱崎遺跡北側の状況を明らかにすることができた。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 S=1/8000)



2. 調査区全景 (北東から)

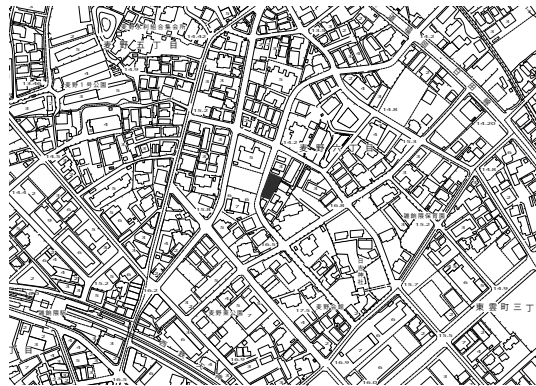
1941 麦野 C 遺跡第 17 次調査 (MGC17)

所在地 博多区麦野 6 丁目 14, 15, 16, 18
調査原因 共同住宅
調査期間 2019.9.18 ~ 2019.10.21
調査面積 193.0㎡
担当者 池田祐司
処置 記録保存

調査の概要

麦野 C 遺跡は福岡平野を北北西に延びる丘陵上に立地し、北西側の麦野 A 遺跡との間には狭い谷地形が北東から入る。調査地点はこの谷に面した緩斜面に位置する。北西へ緩やかに下がる鳥栖ローム上面が遺構面で、標高は 14.7~15.4 m である。

検出した遺構は近現代の溝 2 条、弥生時代の土坑 3 基、近世の井戸 3 基とピットである。覆土は主に黒褐色土または灰茶褐色土で、前者の遺構が古い傾向がある。調査区中央には長軸 80cm ほどの長方形のピットからなる 1 間×2 間の建物を検出した。遺物は古代以前と考えられる黒褐色土を覆土とする遺構からの出土が特に少ない。土坑からは弥生中期の須玖式片などが出土しているが、覆土に散在する程度で時期の決め手に欠ける。弥生時代中期から江戸期の集落の一部と言えよう。昭和初期の地図では竹林である。



1. 調査地点の位置 (12 麦野 0050 S=1/8,000)



2. 調査区北半全景 (南西から)

1942 博多遺跡群第 236 次調査 (HKT236)

所在地	博多区祇園町 76-5
調査原因	駐車場整備
調査期間	2019.9.26 ~ 2019.11.12
調査面積	43.0㎡
担当者	今井隆博
処置	記録保存

調査の概要

博多遺跡群は御笠川と那珂川に挟まれた博多湾岸の砂丘上に立地し、南北 1.6km、東西 0.9kmの広がりを持つ。博多遺跡群が立地する砂丘は、現在の明治通りを境に内陸側を博多浜、海側を息浜と呼んでおり、第 236 次調査地点は博多浜の最高所付近にあたる。調査前の標高は約 5.9 m で、4.8 m ~ 4.0 m 付近において 3 面の調査を行った。

検出した遺構は、古墳時代・古代・中世・近世の土坑・溝・柱穴等である。調査区中央の大型廃棄土坑からは近世瓦や近世陶磁が大量に出土した。また、第 3 面とした砂丘面の調査では、ほぼ東西方向に延びる古代の溝を検出した。

本地点からの出土遺物は、古墳時代の土師器、奈良時代の土師器・須恵器、中国製陶磁器、国産陶磁器や瓦等で、コンテナケース 25 箱分である。墨書陶磁器やガラス小玉の他に、鞆の羽口や椀形滓といった鍛冶関連遺物も出土している。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 S=1/8000)



2. 古代の溝 (東から)

1943 箱崎遺跡第 103 次調査 (HKZ103)

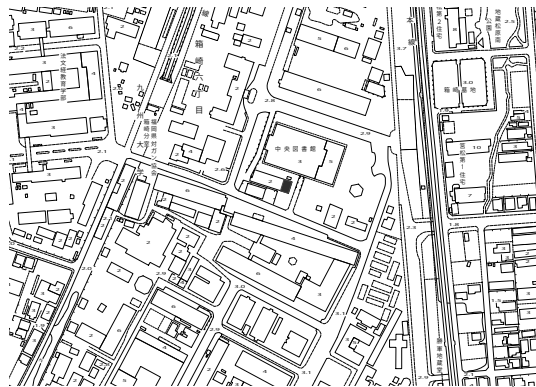
所在地	東区箱崎 6 丁目 10-1 防音講義室
調査原因	学術研究 (HZK1902)
調査期間	2019.9.10 ~ 2019.9.27
調査面積	100.0㎡
担当者	九州大学埋蔵文化財調査室
処置	現状保存

調査の概要

箱崎遺跡第 103 調査地点 (HZK1902) は、九大箱崎キャンパス内中央図書館南側の防音講義室の建物下部分にあたり、この基礎内部および犬走下から石積み遺構を検出した。

石積み遺構は、箱崎キャンパス内でこれまでに確認された石積みと一連のものと考えられる。他地点と同じく、名島層由来の礫岩・砂岩を用いている。石積み遺構は最大で 2 段積んだ状態で遺存しているが、防音講義室建築時に緑石の代用品として基礎に接着させられ、あるいは建物建築の際に圧を加えて西側に押し出すなどしているために、必ずしも良好とは言えない。石積み遺構については養生の上で現地での埋め戻し保存を行っている。

なお、本地点を含め箱崎キャンパス内中央図書館以南で確認された石積み遺構及び溝状遺構は、令和 2 年 3 月 10 日に史跡元寇防塁に追加指定を受けた。



1. 調査地点の位置 (33 貝塚 2139 S=1/8,000)



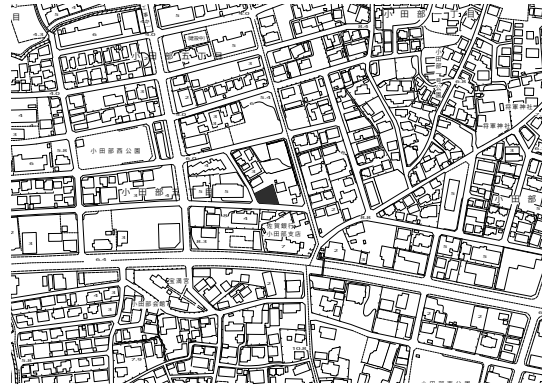
2. 元寇防塁石積み遺構残存状況 (北から)

1944 有田遺跡群第 270 次調査 (ART270)

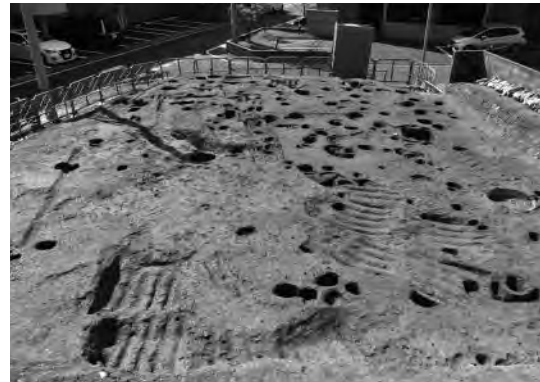
所在地	早良区小田部 5 丁目 41 番
調査原因	宅地造成
調査期間	2019.9.17 ~ 2019.10.29
調査面積	179.0㎡
担当者	吉田大輔
処置	記録保存

調査の概要

第 270 次地点は、有田遺跡群の北西部に立地し、遺跡群が展開する八つ手状の台地の 8 つの突出部のうち、東から 5 つ目に位置する。現況で周辺道路より 1.5 m 程高く、現況 GL-50 ~ 60cm で遺構面となった。検出面の標高は約 6 m である。検出した主な遺構は、竪穴住居跡が 2 軒、方形土坑 1 基、貯蔵穴 2 基、溝 2 条、掘立柱建物 3 棟以上、ピット多数である。削平を受け、住居や溝等の遺存状況は悪い。遺構の時期としては、古墳時代後期から奈良時代にかけてのものが多くと考えられる。遺物の出土量は全体でコンテナ 5 箱程度と少なく、細片が多いため、遺物が出土した遺構の時期については精査が必要である。遺物の時期は弥生時代前期~弥生中期初頭までの土器・石器、古墳時代前期の土師器、古墳時代後期から奈良・平安時代の土師器・須恵器等があり、鉄滓も数点出土している。



1. 調査地点の位置 (82 原 0309 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (北東から)

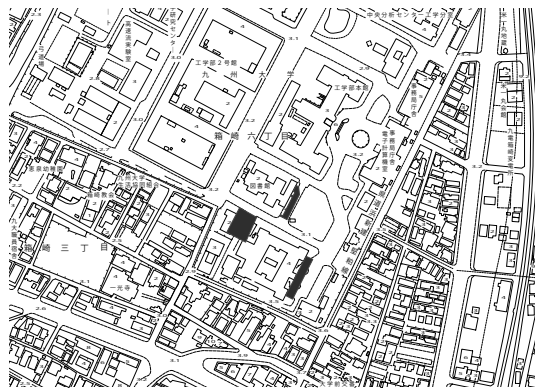
1945 箱崎遺跡第 104 次調査 (HKZ104)

所在地 東区箱崎 6 丁目 10-1 保存図書館
調査原因 学術研究 (HZK1904)
調査期間 2019.10.2 ~ 2019.11.12
調査面積 300.0㎡
担当者 九州大学埋蔵文化財調査室
処置 記録保存

調査の概要

第 104 次調査地点 (HZK1904) は、九州大学箱崎キャンパスの南部の旧保存図書館東側に位置する。同建物の基礎撤去に先立ち発掘調査を実施した。調査区北半は近現代の攪乱が広範囲に深く及んでおり、遺構は確認されなかった。一方、調査区南半では、土坑・ピット約 50 基、井戸 3 基、煉瓦積遺構 2 基など多数の遺構が検出された。遺物としては、中世の陶磁器・土師器・瓦・土錘・石錐・銭貨・動物骨などが出土している。今後の整理・検討を要するが、遺構の所属時期は概ね 12 ~ 15 世紀と推定される。中世の箱崎遺跡の広がりや土地利用を検討するうえで重要な成果がえられた。

なお、中世の遺構および包含層からではあるが、弥生時代中期の土器や石器が出土した。当時の土地利用が本地点まで及ぶことが判明した点は重要であり、また砂丘の形成時期を考えるうえで注目すべき成果といえる。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (南から)

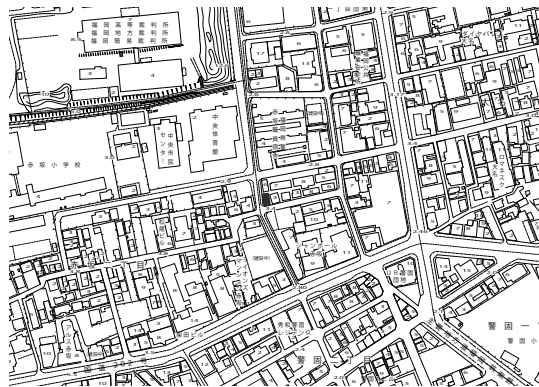
1946 福岡城跡第 79 次調査 (FUE79)

所在地	中央区赤坂 1 丁目 46 番
調査原因	ビル建設
調査期間	2019.10.9 ~ 2019.10.18
調査面積	17.0m ²
担当者	中園将祥
処置	記録保存

調査の概要

福岡城は江戸時代慶長年間に築城された平城で、西側には自然地形の入り江を取り込んで大堀（現在の大濠公園）とし、北・東・南には内堀を造成し、城郭全体を堀で区画する。第 79 次調査地点は、南側に位置する内堀の城外部分を形成する石垣が位置する場所に当たる。

地表面下約 50cm で石垣を検出した。堀側の掘削面積が狭く、また法面崩落の危険性をも鑑み、堀の下部まで掘り下げる事が出来ずに地表面から約 2 m 下までの掘削となった。上部三段の石垣は、形状から明治期に積み直された近代の石垣であり、四段目より下で江戸期の石垣を確認する事が出来た。この周辺の堀は昭和初期まで沼地のような状態で現存しており、出土した遺物も陶磁器、ガラス瓶、瓦、木製品及び珫瑯看板など近代のものばかりであった。堀部分を深く掘削出来ていれば、江戸期の遺物も出土していたと考えられる。



1. 調査地点の位置 (60 舞鶴 0193 S=1/8,000)



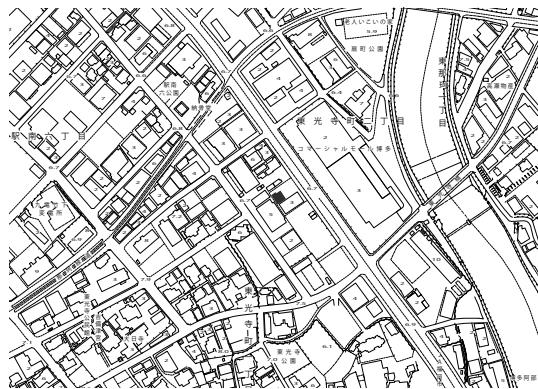
2. 調査区内石垣検出状況全景 (北から)

1947 那珂遺跡群第 177 次調査 (KAK177)

所在地	博多区東光寺町 1 丁目 19 番 1、19 番 2
調査原因	事務所建設
調査期間	2019.10.7 ~ 2019.11.20
調査面積	131.72㎡
担当者	清金良太
処置	記録保存

調査の概要

調査地点是那珂遺跡群の北東側に位置し、筑紫通りを挟んだ北東側では 102 次調査が行われている。遺構としては土坑墓 3 基、甕棺墓 1 1 基（成人棺 7 基・小児棺 4 基）、掘立柱建物 2 棟、竪穴住居 4 棟、井戸が 1 基検出された。時期・土地利用として、弥生時代前期の土坑墓から立岩式の甕棺までが墓域として利用されており、それ以降は生活域に変化していると考えられる。掘立柱建物の 1 棟は大型で弥生時代後期の竪穴住居に切られることからそれ以前の時期が想定できるが、遺物が少量で時期の決定には至っていない。もう 1 棟は古代の掘立柱建物で調査区外に伸びている。竪穴住居は弥生時代初めから古墳時代初めにかけて 4 棟切合うように検出された。また、中世の井戸からは曲物などの木製品、青磁、白磁が検出された。出土遺物はパンケース 20 箱、木器が 3 箱出土し、想定よりも濃厚に遺跡が残存していた。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0085 S=1/8,000)



2. 第 177 次調査地点全景 (北東から)

1948 麦野 C 遺跡第 18 次調査 (MGC18)

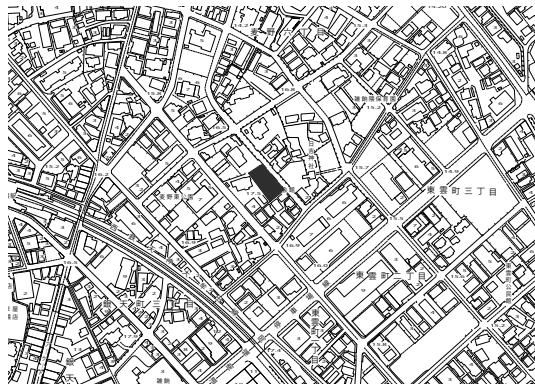
所在地	博多区麦野 6 丁目 13 番 5
調査原因	共同住宅建設
調査期間	2019.10.16 ~ 2019.11.29
調査面積	320.4㎡
担当者	三浦悠葵
処置	記録保存

調査の概要

本調査地は遺跡の中央部に位置する。調査地の西側では 1 次・5 次調査が行われており、弥生時代前期末～後期初頭の竪穴住居を主体として古代、中世の遺構が見られる。

今回の調査では、地表から約 40cm 掘り下げた地点で鳥栖ローム層を地山とする遺構面を検出した。遺構は溝 5 条と大型の土壇 7 基、ピットを検出した。溝は全て北西から南東方向に掘られており、幅約 3m の大溝が 1 条と、幅 50cm 程度の小溝が 4 条ある。いずれも 15～16 世紀頃のものと考えられ、少量の土師皿と青磁片などが出土した。大溝は調査区南端でほぼ直角に屈曲している。大型土壇からは少量の土師皿片が出土し、15～16 世紀以降の遺構と考えられる。

以上より、本調査地点とその周辺地域では、中世後半以降の集落が形成されていたと考えられる。



1. 調査地点の位置 (12 麦野 0050 S=1/8,000)



2. 調査区南半全景 (南西から)

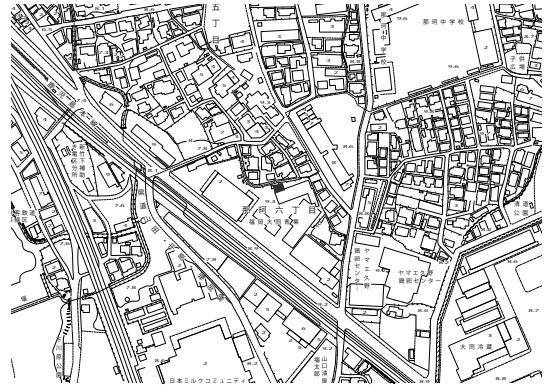
1949 那珂遺跡群第 178 次調査 (NAK178)

所在地	博多区那珂 6 丁目 313 番 1 他 4 筆
調査原因	バス営業所
調査期間	2019.10.17 ~ 2019.11.29
調査面積	184.0㎡
担当者	屋山洋
処置	記録保存

調査の概要

那珂遺跡は福岡平野中央部を流れる那珂川右岸の洪積丘陵上に位置する。今回の 178 次調査地点は那珂遺跡の西端に位置し、隣接する 37 次や 51 次・53 次調査では、突帯文土器を伴う環濠が確認されている。また、東側に位置する 56 次・174 次調査では古代から中世にかけての大型掘立柱建物や溝が出土しており、官衙や寺院もしくは居館等の存在が予想される。今回の 178 次調査では竪穴式住居、土坑、柱穴群が出土した。竪穴式住居はいずれも古墳時代中頃である。柱穴群では 3 軒の掘立柱建物を確認できた。そのうち SB01 は 3×3 間の総柱で 24.7㎡、SB02 は 2×2 間の側柱で 13.6㎡を計る。

調査区北側道路付近から一字一石経が出土した。墨書には「佛」「経」などの字が確認できる。調査では一部のみを確認したが、実際は広範囲に分布している可能性がある。



1. 調査地点の位置 (38 塩原 0085 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (東から)

1950 クエゾノ遺跡第5次調査 (KEZ5)

所在地	早良区梅林7丁目145
調査原因	宅地造成及び戸建住宅建設
調査期間	2019.11.11～2020.2.14
調査面積	208.8㎡
担当者	三浦萌・加藤良彦
処置	記録保存

調査の概要

クエゾノ遺跡は油山から延びる丘陵上に位置する縄文から中世にわたる複合遺跡である。今回の第5次調査区は遺跡範囲の中央よりやや南東に位置する。調査では主に石室1基と古墳時代と思われる住居址2基、弥生時代と古墳時代の溝が各1条、古代もしくは中世のものと思われる焼土坑が数基、古墳時代初期の壺を埋めた土坑など様々な遺構が確認されている。石室内からは須恵器・鉄器・金環が、土坑出土の壺からも多量の玉類が確認された。遺物はコンテナケース35箱分が出土した。

石室の出土遺物を検討した結果、当古墳は当該地域における首長系譜の人物が葬られた可能性が非常に高い。調査地点東側にはクエゾノ1号墳(1次調査)が存在しており、周辺に未発見の古墳群が存在している可能性が想定できる。



1. 調査地点の位置 (84 重留 0269 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (北から)

1951 箱崎遺跡第 105 次調査 (HKZ105)

所在地	東区箱崎3丁目2416番1
調査原因	共同住宅
調査期間	2019.11.25～2019.12.24
調査面積	135.0㎡
担当者	吉田大輔
処置	記録保存

調査の概要

箱崎遺跡第 105 次調査地は、遺跡範囲の北東端に位置する。調査地の標高は約 3.4 m である。遺構は、地山である砂丘面上で検出した。遺構検出面の標高は約 2.8 m で、現地表面からの深さは約 0.65 m を測る。検出した遺構は、井戸 3 基、土坑 5 基、溝 2 条、小穴 9 基である。井戸は 12 世紀後半頃、土坑は 12 世紀～13 世紀頃、溝は 16 世紀頃の所産と考えられる。主な出土遺物は、龍泉窯系青磁碗・皿、同安窯系白磁・青磁碗・皿、中国陶器捏鉢、青白磁合子等の輸入陶磁器類、土師器坏・皿、土鍋、瓦器碗、東播系須恵器の捏鉢、滑石製品等である。遺物は多くが井戸から出土した。また、近世の廃棄土坑からは 14～15 世紀頃の瓦が多量に出土し、軒平・軒丸瓦や丸瓦・平瓦・鬼瓦等が出土している。軒平瓦の瓦当には「三用山」と読める山号があるものもあり、付近に寺院が存在したものと推測される。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (南から)

1952 吉塚遺跡群第 16 次調査 (YSZ16)

所在地	博多区堅粕四丁目 404 番他 3 筆
調査原因	ホテル建設
調査期間	2019.12.2 ~ 2020.2.3
調査面積	307.7㎡
担当者	木下博文
処置	記録保存

調査の概要

吉塚遺跡は、御笠川の東岸、博多湾岸に並ぶ砂丘群の一画に立地し、標高 4 m 前後を測る。第 16 次調査地点は遺跡中央部のやや南西寄りに位置し、南東隣地に 2 次、南西隣地に 3 次、北西に 4 次調査地点が位置する。

調査では現地表面から 1.2m 下の黄褐色砂丘面で検出し、弥生時代終末期～中世の井戸・土坑・柱穴などの遺構を検出した。特に調査区北西端では、ほぼ磁北に近い主軸をもつ南北方向の古墳時代の掘立柱建物 1 棟を検出した。集落の性格を検討する上で貴重な資料となる。

遺物はコンテナケース 40 箱分の弥生時代終末期～中世の土器片のほか、小形丸底壺や飯蛸壺の完形品、滑石製の有孔円板なども出土した。



1. 調査地点の位置 (36 博多駅 0123 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (南東から)

1953 比恵遺跡群第 155 次調査 (HIE155)

所在地 博多区博多駅南 6 丁目 12-3,13-3,14-3,14-5,14-7
調査原因 共同住宅
調査期間 2019.12.9 ~ 2020.3.24
調査面積 433.56㎡
担当者 清金良太
処置 記録保存

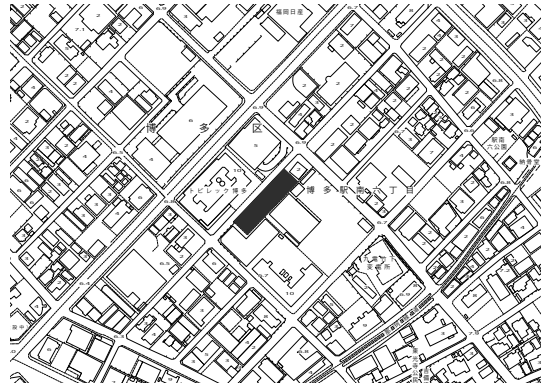
調査の概要

第 155 次調査地点は、比恵遺跡群中央南側に位置しており、北側で実施された第 57 次調査では多数の遺構が検出されるなど比恵遺跡群の中心部に位置している。

主な遺構として、掘立柱建物が 2 棟、竪穴住居が 4 棟、溝が 2 条、井戸が 14 基、土坑が 1 基検出された。

建物跡と井戸は弥生中期後半から古墳時代初めと、奈良時代に分かれて検出され、人と水の密接な関わりを示す。また、弥生時代の井戸から釣瓶、杵の木製品のほか、玉も出土している。

I 区では 5 世紀末～6 世紀初めの II 区では幅 2 m、弥生中期の溝が検出されたが、周りの調査では出土しておらず、今後の調査によって明らかとなることを期待する。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0127 S=1/8,000)



2. 北側調査区全景 (南西から)

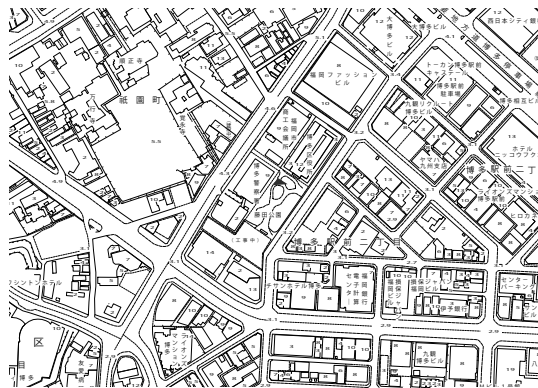
1954 博多遺跡群第 237 次調査 (HKT237)

所在地	博多区博多駅前 2 丁目 174-2
調査原因	庁舎建設
調査期間	2020.1.14 ~ 2020.3.11
調査面積	158.4㎡
担当者	佐藤一郎
処置	記録保存

調査の概要

博多遺跡群は福岡平野の中央、那珂川河口右岸に位置し、博多湾岸に沿って形成された古砂丘上に立地する。調査地は遺跡南端に位置し、房州堀推定ラインに近接する。今回の調査では現地地表下 0.9 から 1.8m まで礫混じりの粗砂（近世の遺物を含む）、2.0m まで褐灰色土（近世の遺物を含む）が堆積し、2m 以下で 15 世紀中頃までに埋没した河川堆積、もしくは堀の落ち SD01 を検出した。深さ 0.5 ~ 0.6m（標高 1.4m 前後）で地山の灰白色砂となり、岸、立ち上がりを検出することはできなかった。

検出した遺構を河川とした場合、御笠川旧河道の一部とみられる。堀とした場合、埋土から出土した遺物は大内氏の博多支配の時期に相当し、『続風土記』にある大内氏によって築造された堀の一部となる可能性がある。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (東から)

1955 藤崎遺跡第 39 次調査 (FUA39)

所在地 早良区百道1丁目807番10
調査原因 共同住宅
調査期間 2020.2.10～2020.2.28
調査面積 113.0㎡
担当者 池田祐司
処置 記録保存

調査の概要

砂丘頂部の北側に位置し、隣接する調査地点では小型の甕棺墓が出土している。地表下 1.3 m ほどの標高 4.3 m の淡黄色砂層上で遺構を確認した。実際にはさらに高いレベルが遺構面と考えられる。確認した遺構は甕棺墓 5 基、遺物を含む土坑 7 基、遺物を含まない土坑群である。

甕棺墓はいずれも須玖Ⅱ式の小型棺で壺の単棺 1、甕の単棺 1、甕・甕の合わせ口 2 基、甕・壺の組み合わせ 1 基である。人骨は残っておらず、副葬品もない。このうち 4 基は調査区南西寄りに集まることから甕棺墓域の北限に近いと考えられる。土坑は茶褐色、黒褐色等の砂を覆土とするが、いずれも遺物が少ない。その中で SK016 からは須恵器Ⅳ期坏・蓋と釣り針、刀子等の鉄器がまとまって出土した。また連続するように接する SK017 からは土師器甕の完形品が正置した状態で出土した。



1. 調査地点の位置 (81 室見 0307 S=1/8,000)



2. 甕棺墓検出状況 (東から)

1956 比恵遺跡群第156次調査 (HIE156)

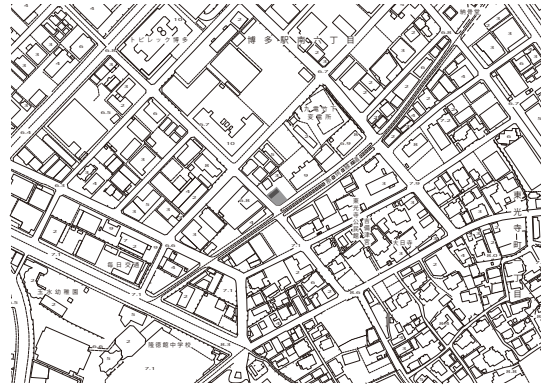
所在地 博多区博多駅南6丁目19-1
調査原因 共同住宅建設
調査期間 2020.1.15 ~ 2020.1.24
調査面積 66.0㎡
担当者 今井隆博
処置 記録保存

調査の概要

比恵遺跡群は福岡平野のほぼ中央に位置し、那珂川と御笠川に挟まれた台地上に立地する。第156次地点は比恵遺跡群の南端に位置し、南に隣接する那珂遺跡群との境の浅い谷の落ち際にあたる。調査前の現況は更地で、標高は約6.6mであった。

調査区を北東—南西方向に横断する幅1.5m、深さ50cm前後の溝を確認した。断面は緩やかな三角形状である。出土遺物は弥生時代中期～後期の土器が主体を占めるが、上層では一定量の須恵器を含み、下層からはごく少量の須恵器小片が出土している。底面の凹みからは完形の弥生土器壺が2点出土した。

調査区からの出土遺物は弥生時代～古代の土器・石器で、全体でコンテナ15箱分である。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0127 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (南から)

1957 井尻 B 遺跡第 45 次調査 (IGB45)

所在地	南区井尻 5 丁目 234 番 10
調査原因	共同住宅
調査期間	2020.1.14 ~ 2020.3.31
調査面積	326.9㎡
担当者	三浦悠葵
処置	記録保存

調査の概要

本調査地は遺跡中央南側に位置する。調査地東側で行われた 9 次調査では弥生時代後期の遺構がみられ、南西約 200 m の地点には井尻 B1 号墳がある。調査では、古墳時代の遺構面と弥生時代の遺構面 2 面で調査を実施した。遺構は竪穴建物跡 3 軒と掘立柱建物跡 2 軒とその他複数のピット、古墳時代中期の古墳 1 基を検出した。調査区南東側には弥生時代後期後半の大型の掘立柱建物があり、建物内側に大型の柱穴を検出した。古墳は墳丘が全て削平されており、円丘部分の周溝のみを検出しただけで墳形は定かでない。外周直径約 25 m を測る。遺物は周溝から埴輪 (円筒、家、盾、その他)、須恵器、土師器と少量の鉄製品が出土し、時期は 5 世紀後半頃と考えられる。以上より、本調査地は弥生時代後期から終末期にかけて一部は祭祀場などの特殊な場として機能し、古墳時代中期には古墳が造営されたことが判明した。



1. 調査地点の位置 (25 井尻 0090 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (北西から)

1958 博多遺跡群第 238 次調査 (HKT238)

所在地 博多区店屋町 186 番 1、186 番 2、187 番 3
調査原因 ホテル建設
調査期間 2020.1.15 ~ 2020.4.24
調査面積 141.3㎡
担当者 上角智希・佐藤一郎
処置 記録保存

調査の概要

博多遺跡群は福岡平野の中央、那珂川河口右岸に位置し、博多湾岸に沿って形成された古砂丘上に立地する。調査地は遺跡の中央やや南寄りに位置し、近辺の調査では砂丘砂は確認されず、検出された遺構は 14 世紀以降に留まっている。第 1 面である黄褐色砂質土（標高 2.7m）上面で、近世以降の井戸・铸造遺構・石基礎・礎石建物跡を検出した。第 2 面では井戸・大溝、15～16 世紀の土坑・集石遺構・石積土坑・埋土に炭を多量に含む方形土坑を検出した。第 3 面では灰白色砂の水成堆積を確認し、その上面で溝、土坑、柱穴を検出した。遺構や層から土師器小皿・杯片、国産陶器、明代前半の青磁碗・皿片の他、特筆されるものでは青白磁菩薩像頭部片が出土している。本調査地は古砂丘縁辺の入り江に面し、土地利用が中世後期以降と博多遺跡群の中では開発が後になる区域である。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (南西から)

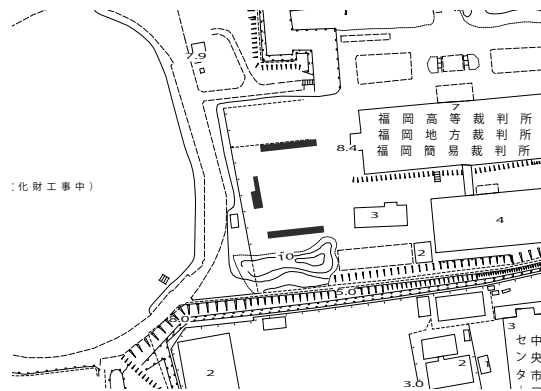
1959 福岡城跡第 80 次調査 (FUE80)

所在地	中央区城内
調査原因	史跡整備
調査期間	2020.1.10～2020.3.5
調査面積	410.7㎡
担当者	阿部泰之 史跡整備活用課
処置	現状保存

調査の概要

福岡城跡第 80 次調査（鴻臚館跡第 32 次）では、鴻臚館時代の等高線に直交する位置に調査区を南北 2 区画設定し、何れも標高 8m 前後で終戦前後、7.4～7.5m で近世後期～幕末期の福岡城の整地層を検出した。史跡鴻臚館跡の歴史的層性を示す近世・近代の遺構の保存に配慮し、近世整地層以下の掘削は行っていない。

南側の 1 区では、建物基礎および関連施設、それ以前の土壌・柱穴を検出した。建物基礎は幅 15cm 前後の布基礎およびレンガ敷きであり、戦前に建設された陸軍関係施設の可能性がある。建物関連施設は簡易水洗式便所の便槽と考えられる。土壌 1 基を除き建物建設時に人為的に埋められている。2 区では 1 条の石敷きを検出した。近代に構築され、終戦前後まで使用された通路と考えられる。遺物はコンテナ 3 箱分の瓦や陶磁器類が出土した。



1. 調査地点の位置 (60 舞鶴 0193 S=1/4,000)



2. 2区調査区全景 (東から)

1960 博多遺跡群第 239 次調査 (HKT239)

所在地	博多区祇園町 417 番他 8 筆
調査原因	ホテル建設
調査期間	2020.2.17 ~ 継続中
調査面積	1012.0㎡
担当者	屋山洋
処置	記録保存

調査の概要

博多遺跡群第 239 次調査地点は、博多浜砂丘の南西側に位置する。西側は地下鉄駅舎工事に伴う第 203 次調査となる。調査では弥生時代中期から近代までの濃密に分布する遺構群を確認した。検出した遺構として弥生時代中期の甕棺墓群、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての住居群をはじめ、古代の住居と土壙墓、古代末の土坑と多数の井戸遺構等がある。続く中世から近世・近代にかけての溝遺構や多数の廃棄土坑なども確認されており、連綿と集落や墓域として利用されていたことがわかる。

調査地点付近は博多浜南側砂丘の東西に延びる頂部付近に位置している。また「瓦町通り」という古い地名を冠する路地に面しているが、瓦焼成窯等の窯業に冠する遺構は確認されていない。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 S=1/8,000)



2. 東側調査区全景 (南西から)

1961 名子遺跡第 5 次調査 (NAO5)

所在地	東区名子 3 丁目 778 番 3 他 7 筆
調査原因	店舗建設
調査期間	2020.1.20 ~ 2020.5.29
調査面積	2219.0㎡
担当者	神啓崇
処置	記録保存

調査の概要

名子遺跡は、猪野川が形成した沖積地上に立地し、縄文時代から古墳時代を中心とする遺跡である。これまでに 4 次調査まで実施されている。第 3 次・4 次は遺跡範囲南半の道路整備工事に先立ち実施したものである。第 5 次調査区は遺跡北端に位置し、1 次調査区の北側にあたる。

遺構は古墳時代後期の竪穴建物 28 棟、掘立柱建物 3 棟以上のほか、奈良時代の溝を検出した。調査区周辺には森江山古墳群や湯ヶ浦古墳群があり、それらに対応する集落といえる。また、本調査区は古代山陽道の推定線上にあり、検出した奈良時代の溝はその道路側溝の可能性がある。

遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器、鉄器がコンテナケース 30 箱分出土した。



1. 調査地点の位置 (7 八田 2829 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (北東から)

1962 那珂遺跡群第 179 次調査 (NAK179)

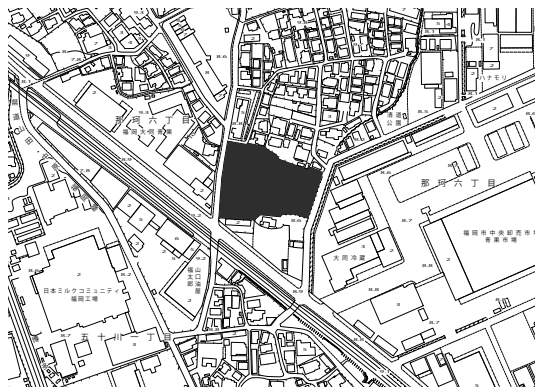
所在地	博多区那珂 6 丁目 333 番 1
調査原因	共同住宅建設
調査期間	2020.2.10 ~ 2020.12.18
調査面積	2000.0㎡
担当者	常松幹雄
処置	記録保存

調査の概要

第 179 次調査地点は、那珂遺跡群の南東部の標高 8 ~ 9 m の丘陵部にあたる。開発により埋蔵文化財が影響をうける約 2,000㎡を第 I ~ III 区に分けて着手した。

敷地南西側を第 I 区とし 1,160㎡について掘削を開始。I 区東側の 400㎡は、現地表下 40cm で遺構面を確認した。一方、南西部の 760㎡は 70cm ほど削平を受けていたが、那珂・比恵遺跡群を貫く古代の道路状遺構の東側溝を検出した。第 I 区の南西隅では中世前半の素掘りの井戸を検出し、白磁碗や石鍋の破片等がまとめて出土した。

第 II・III 区は第 I 区の東側で設定した。II・III 区では断面逆台形となる東西方向の溝を延長 60m 検出した。溝は東側に向かい傾斜しており、埋土からは 7 世紀後半の須恵器等が出土した。



1. 調査地点の位置 (24 板付 0085 S=1/8,000)



2. 調査第 I 区全景 (東から)

1963 井相田 E 遺跡第 2 次調査 (ISE2)

所在地	博多区井相田 3 丁目 8-3
調査原因	土地造成
調査期間	2020.3.5 ~ 2020.3.31
調査面積	661.6㎡
担当者	三浦萌
処置	記録保存

調査の概要

井相田 E 遺跡は麦野 C 遺跡東側に隣接する遺跡で、平成 22 (2010) 年に新規登録された遺跡である。第 1 次調査では官道水城東門ルートとの関連が指摘される 8 世紀代の溝遺構が複数確認されている。今回の 2 次調査地点は 1 次調査地点の南東部にほぼ隣接する。

調査で検出した遺構は主に溝遺構と土坑である。調査区は旧来水田であったと考えられる場所であり、水田のための用水路であった可能性が高い。溝遺構いずれも調査区を南北に縦断する形で検出され、官道推定ラインとほぼ並行の主軸となる。周囲の区画は条理区画に則ったものとなるが、検出された溝遺構はこれと異なる方向を採っており、古代以来の古地形を反映した遺構である可能性が考えられる。遺物はコンテナケース 1 箱分の土師器、須恵器、貿易陶磁器などが出土した。



1. 調査地点の位置 (12 麦野 2881 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (北から)

1964 野芥遺跡第 18 次調査 (NKE18)

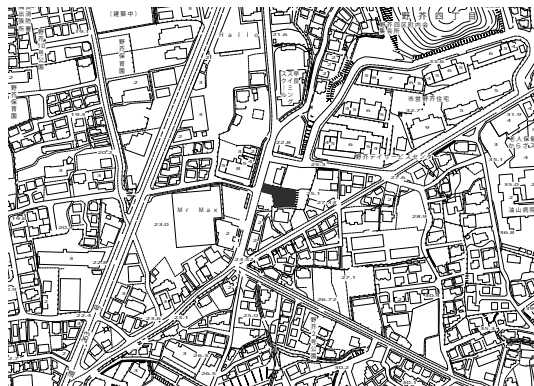
所在地	早良区野芥 4 丁目 372-1
調査原因	共同住宅建設
調査期間	2020.3.2 ~ 2020.4.10
調査面積	180.0㎡
担当者	木下博文
処置	記録保存

調査の概要

野芥遺跡は、福岡市早良区南東部の丘陵上に立地する旧石器時代～近世の複合遺跡である。第 18 次調査地点は遺跡範囲の南西端部、標高 24 m 前後の地点に位置する。北東隣地の 4 次調査地点（現 市営野芥住宅）ではカマドを持つ古墳時代後期の竪穴住居跡などが確認されている。

今回の調査では、古代の時期と考えられる南北方向の主軸を持つ溝遺構のほか、古墳時代終末以降の竪穴建物や掘立柱建物などを検出した。遺物はコンテナケース 2 箱分の土師器、須恵器等が出土した。

調査の成果より、調査地点が古墳時代から古代にかけての集落域であったことや古代の時期には官衛施設に関連する遺構が存在していたことが判明した。



1. 調査地点の位置 (84 重留 0319 S=1/8,000)



2. 東側調査区全景 (南西から)

1965 野芥遺跡第 19 次調査 (NKE19)

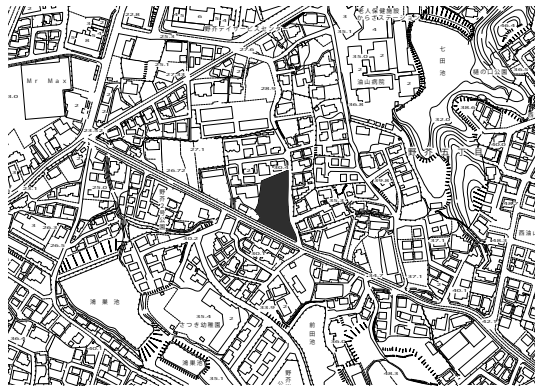
所在地	早良区野芥 5 丁目 387 番 1,388 番 3,388 番 15
調査原因	宅地造成
調査期間	2020.3.16 ~ 2020.9.23
調査面積	1385.5㎡
担当者	池田祐司
処置	記録保存

調査の概要

調査地点は油山丘陵西側裾部の緩斜面に位置する。調査では古墳時代の集落を中心に、奈良時代の製鉄遺構や平安時代の土器溜り遺構など、2面の遺構面を確認した。

古墳時代では、前期の集落と後期の古墳 2 基と集落を検出した。前期の集落は竪穴遺構 1 基、後期は 6 世紀末から 7 世紀初めの竪穴遺構 10 基以上、総柱建物 3 基である。古墳は主体部の床面が残り、6 世紀中頃の須恵器が出土した。

奈良時代の製鉄遺構は 4 基を確認した。平安時代の土器溜り遺構は 50 個体以上の土師器・瓦器が意図的に並び置かれた状態で出土している。調査ではコンテナケース 90 箱以上の縄文時代から古代末までの遺物が出土している。



1. 調査地点の位置 (84 重留 0319 S=1/8,000)



2. 製鉄遺構 (南西から)

1966 井尻 B 遺跡第 46 次調査 (IGB46)

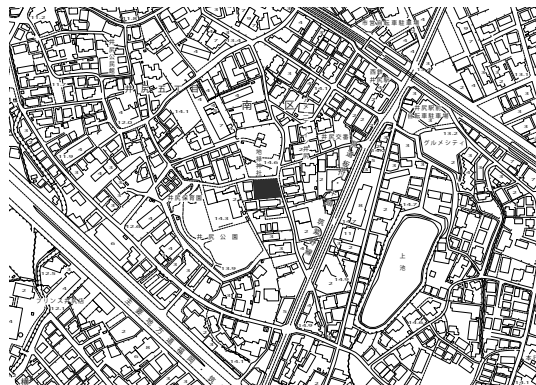
所在地	南区井尻 5 丁目 177-1、177-2、177-7
調査原因	共同住宅建設
調査期間	2020.3.16 ~ 2020.4.13
調査面積	150.0㎡
担当者	今井隆博
処置	記録保存

調査の概要

井尻 B 遺跡は那珂川と御笠川の間形成された洪積中位段丘面上に立地する。今回の調査地点は井尻 B 遺跡の南部にあたり、地祿神社の南側に位置する。道路を挟んで東側の 23 次・24 次地点では土坑や溝等が検出されている。

調査地点は周辺道路より 50cm 程高く、遺構検出面であるローム面の標高は、調査区東端で 13.7 m、西端で 12.7 m で、西に向かって下がる地形である。検出した遺構はピット・土坑で、密度は散漫である。遺構覆土は黒色、褐色、灰褐色等であるが、木根も多いと思われる。ピットの時期は判然としないが、弥生時代～中世のものと思われる。

出土遺物は弥生時代～近世の土器・瓦等で、コンテナケース 1 箱分である。黒曜石剥片が 1 点出土したためロームの掘り下げも行ったが、旧石器を含むローム層は確認できなかった。



1. 調査地点の位置 (25 井尻 0090 S=1/8,000)



2. 東側調査区全景 (東から)

1967 箱崎遺跡第 106 次調査 (HKZ106)

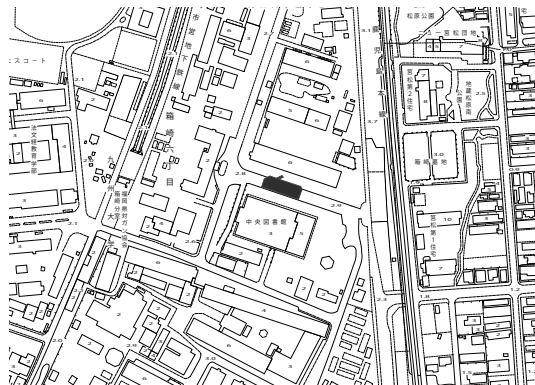
所在地	東区箱崎 6 丁目 10-1 中央図書館北側通路
調査原因	学術研究 (HZK1905)
調査期間	2020.2.25 ~ 2020.6.30
調査面積	600.0㎡
担当者	九州大学埋蔵文化財調査室
処置	現状保存

調査の概要

第 106 次調査地点は、九州大学箱崎キャンパス跡地の北部、中央図書館の北側道路部分にあたり、平成 29 年度に調査した HZK1706 地点の北側に隣接する。

調査の結果、隣接地点の石積み遺構と合わせて、22.3m の石積み遺構を検出した。石積みは 1 段のみ残存しており、他地点と同じく、名島層由来の砂岩・礫岩を用いている。既史跡指定地である史跡元寇防塁地蔵松原地区への接続を考えると、本調査地点付近で石積みのラインが東側へと曲がり始めることを予想していたが、石積み検出地点最南端である 94 次調査地点 (調査番号 1840 HZK1805) から本調査地点まで、石積み遺構はほぼ直線的に伸びていることが判明した。

また、石積み遺構の背後 5m 付近で、石積みに併行する大溝を確認した。大溝の残存幅は約 7m で、石積み基底面からの比高差は約 1 m である。



1. 調査地点の位置 (33 貝塚 2639 S=1/8,000)



2. 石積み遺構検出状況 (南西から)

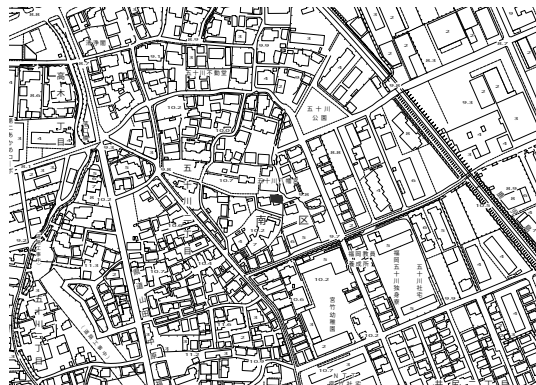
1968 五十川遺跡第 23 次調査 (GJK23)

所在地 南区五十川 2 丁目 106 番 4
調査原因 専用住宅建設
調査期間 2020.2.18 ~ 2020.3.6
調査面積 49.5㎡
担当者 中園将祥
処置 記録保存

調査の概要

五十川遺跡は、福岡平野を流れる那珂川と御笠川に挟まれた洪積台地上の遺跡である。第 23 次調査地点は五十川八幡宮の南東、遺跡範囲の東縁部に位置している。

今回の調査では、住居跡 1 棟・土坑 3 基・ピット 7 基と共に大溝の一部を検出した。住居跡・土坑・ピットは 7 世紀後半の遺構と考えられる。溝は、幅が推定で 5 ~ 6 m 程、深さは約 1.7 m を計る。須恵器の蓋・壺、鴻臚館 635 型式に推定される軒平瓦が出土した。時期は 8 世紀中頃と考えられる。南北軸の大溝と思われるが、調査区内では南側に溝が続かない事、西側の五十川八幡宮側が地形的に微高地になっている事などから、溝と溝との間の入り口のような場所であり、また瓦の出土からも古代における寺院などの大型建物を取り囲む溝であった可能性も高く、周辺の古代の環境を考える上で重要な成果を得ることができた。



1. 調査地点の位置 (24 板付 0088 S=1/8,000)



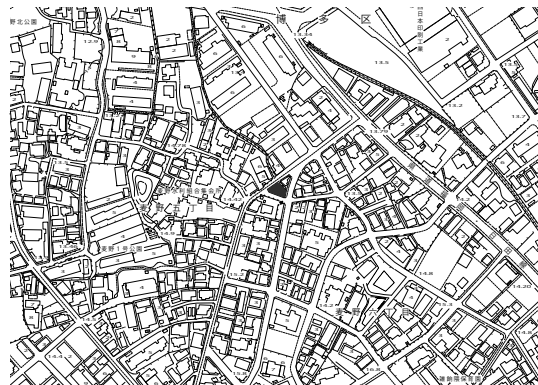
2. 東側調査区全景 (南西から)

1969 麦野 A 遺跡第 30 次調査 (MGA30)

所在地 博多区麦野 6 丁目 5 番 1
調査原因 共同住宅
調査期間 2020.3.23 ~ 2020.4.3
調査面積 71.0㎡
担当者 吉田大輔
処置 記録保存

調査の概要

調査地は、麦野 A 遺跡の南東端に位置する。調査地の標高は、現況で 14.8 m 程で周辺の道路より 1.05 m 程度高い。調査区東半には黒褐色粘質土の遺物包含層が堆積するため、トレンチを 4 箇所設定し堆積状況を確認した。包含層が西から東に向かって傾斜した斜面上に堆積する状況を確認し、奈良時代の土師器・須恵器片が出土した。遺構は、この斜面も含め 18 基のピットを検出したが建物等を復元することはできなかった。遺構からは、奈良時代の土師器坏・甕や須恵器坏・甕・壺片がわずかに出土した。また周辺地形や過去の調査等を合わせて考えると、調査地の東から南側は谷となっており、調査地は丘陵の東側～南側斜面にあたるものと考えられる。調査によって、集落域がこれより北東から東側へは広がらない可能性が高いことが確認でき、また現在は改変されてしまった旧地形の様相を知ることができた。



1. 調査地点の位置 (12 麦野 0048 S=1/8,000)



2. 調査区全景 (西から)

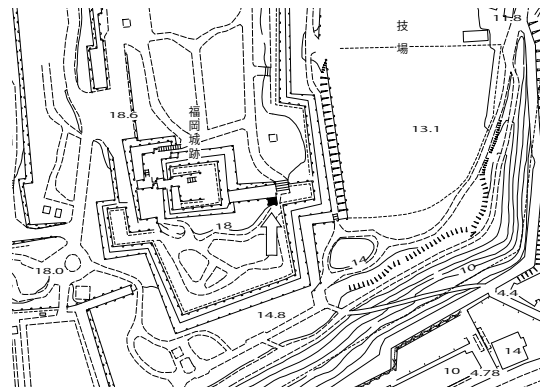
1970 福岡城跡第 81 次調査 (FUE81)

所在地	中央区城内
調査原因	史跡整備
調査期間	2020.3.18 ~ 2020.12.22
調査面積	73.0㎡
担当者	井上繭子 史跡整備活用課
処置	現状保存

調査の概要

中天守石垣は、福岡城跡本丸南側に築かれた天守台を構成する3つの区画のうちの一つである。破損・孕み出しがみられ、安全上緊急性の高い範囲について、石垣の一部を解体し、復旧する保存修復工事を実施した。工事では、可能な限り元石材を使用し、伝統的工法を用いた復旧を行い、中天守が築かれた慶長期前半期の石積みの特徴を生かしながら、本来の石垣の状況に戻すことも目的の一つとした。

中天守石垣は昭和40年にも修理が行われており、既に改変されている部分も多い。この修理時に石積みは一段分が積み足され、裏込石もほぼ最下段まで手が加えられているような状況であり、天端の発掘調査でも櫓等の痕跡はみられなかった。しかし、築城当時の石材加工技術や基礎構造等、今回の解体工事によって新たな知見も得ることができた。



1. 調査地点の位置 (60 舞鶴 0193 S=1/4,000)



2. 保存修復工事完了後 (北東から)